049
Ut

Kitasato Memorial Medical Library
F
ウ-2





Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library

難波津に
さくやこの花
冬ごもり
いまを春べと
さくやこの花

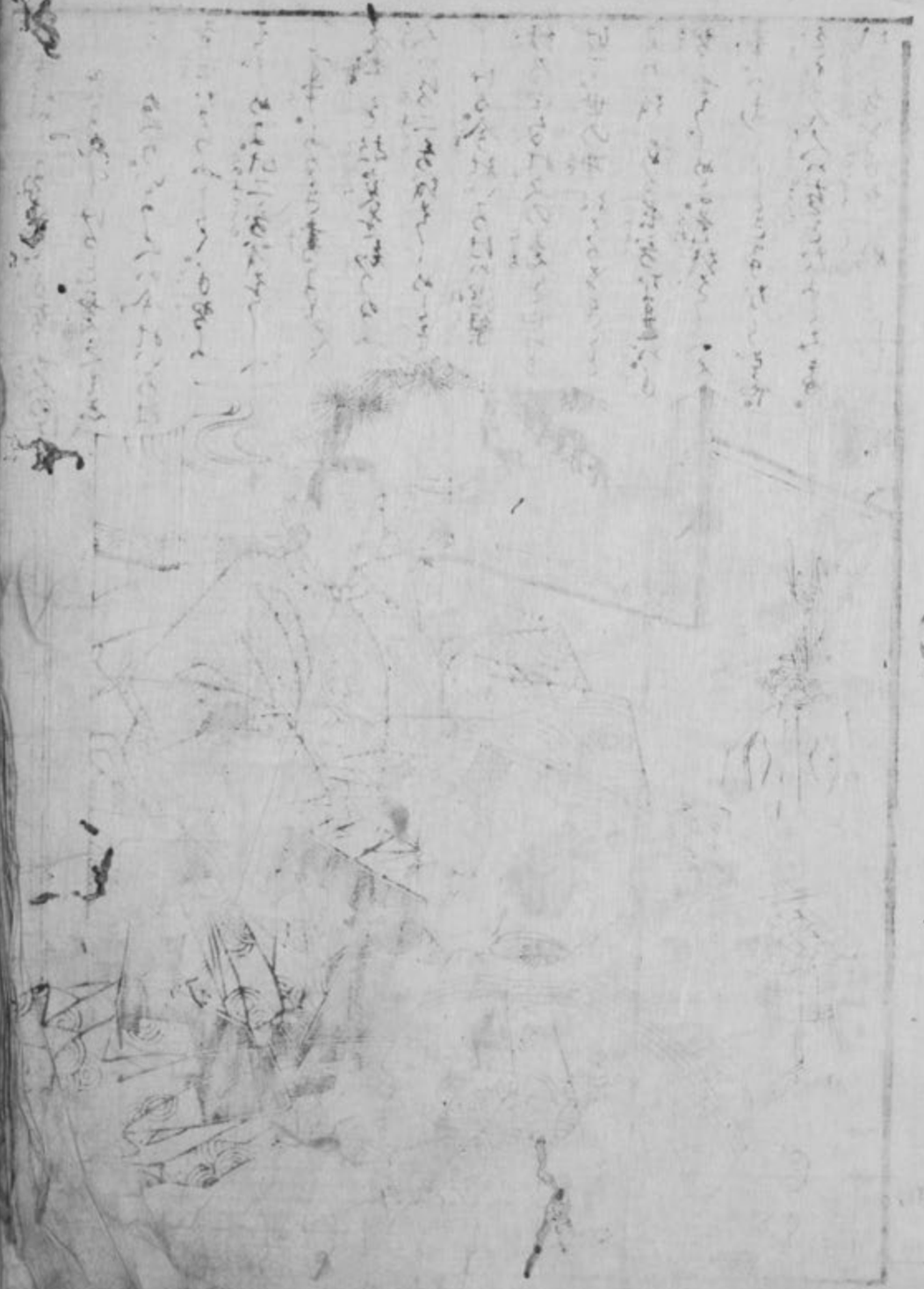




難波津は古へ百済の王仁といつる人の初めてよめるうた。古今の序にもみえたるごとくなりとぞ。みかどの御世ながくつゞめよ事を。木花のさくやこの花がごとくに。さかえまさらんあひて。艶出るふぜいなどよめるうた。みわさ山は三輪の明神。葛城王は橘諸兄公。ともに奈良の時分の司まつりごとなどろそかならずしてまつりけるうけまどにはすゝ子のうりゝれば。末女なる女子をうつひこらゝ命をうけまつりけるぞ。それをうけよゝらとぞそれわあの徳あるおなごぞ。二ゐからこと乃



Kitasato Memorial Medical Library



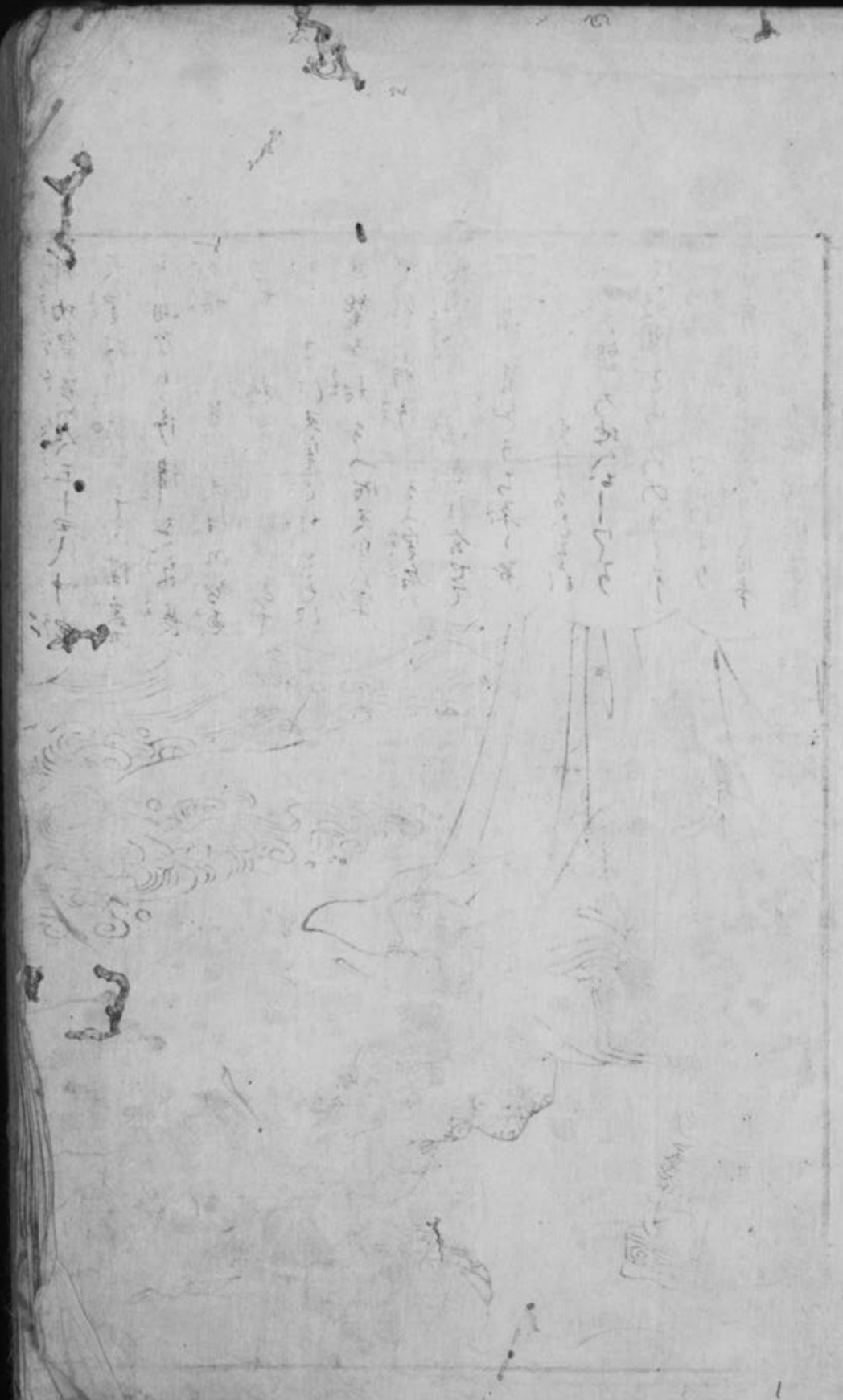
Kitasato Memorial Medical Library

母はやうやくおもひ入のこゝろ
にはんうさーけると。愛くるしき
こゝろいうくに今れいろはを
せならふごとく。よゝつゞめよ山二ゝ水をへ
しまふ。ふるさと書うえ
んこを故實を知つゝふ
人にはる二ゝ文字もーめとぞ
しける。今れいろはに涅槃
経乃ころもの文をやつし
げて。世の中をそろそろと
まう城よめる出家なまじひ
ゝ文字もめよ。元城をーへん
事。いまくしきまならぶ
ゐわろん人の方をたよりみる。
此二ゝ文字

安積山
かげさへ
見ゆる
山の井の
あさき心を
わがおもはなくに

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library



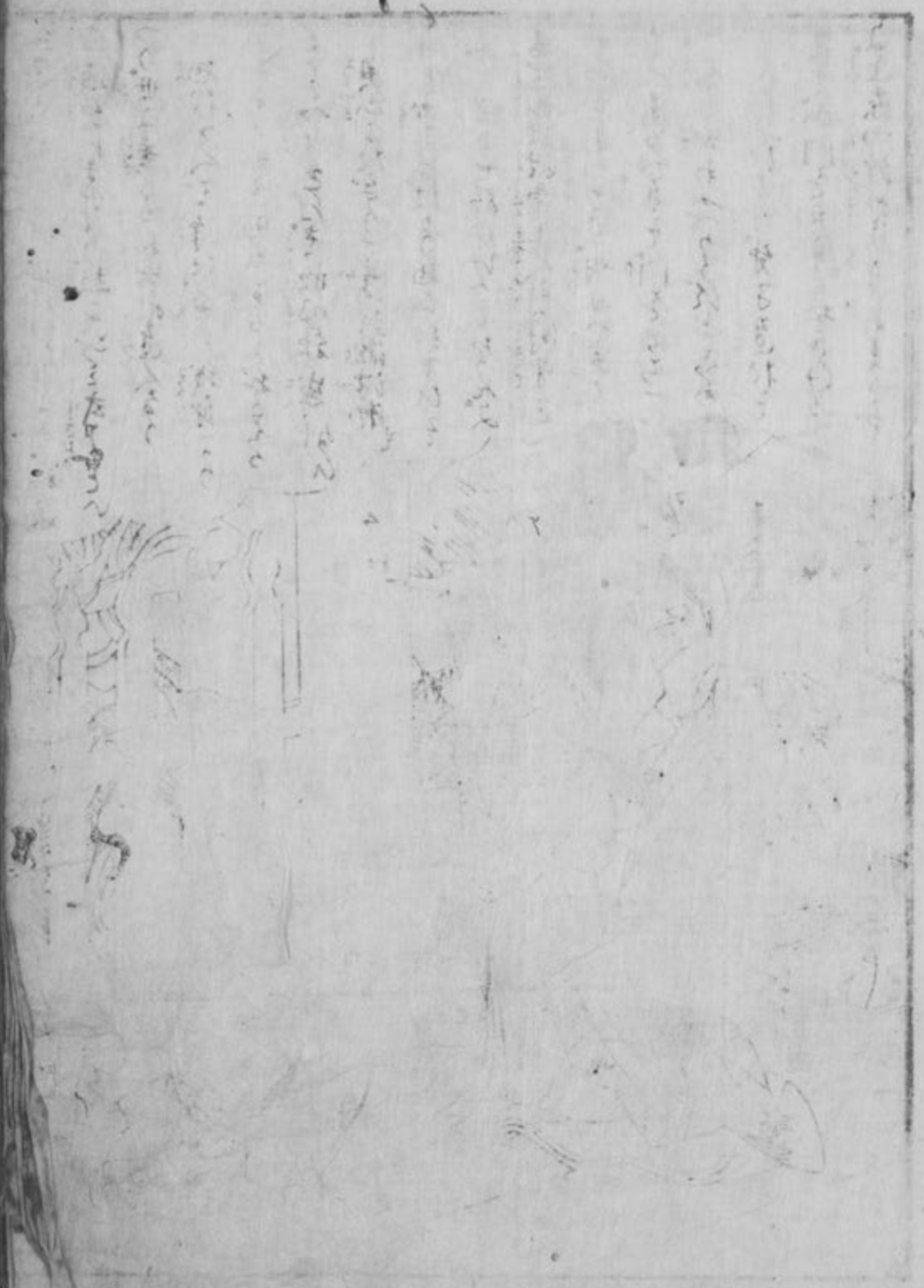
Kitasato Memorial Medical Library

神功皇后の八王十四代仲哀
天皇九州に合つて八幡大
神母なり汝津を為長
足姫とかの名を天性の智恵
さかしく揚給ふ
おつまつて天皇と統ひ
熊襲を討ち八州天皇の軍
ゆいて崩御し給ふ皇后
民心大に治合せて
新羅熊襲をうち平げ
天皇の仇を報ひ給ふ
ちこ雑乃地をおさめ
て筑紫をさろのまつ
ひあきとびくこれより
毎年御裏をおさめて日本
ふたゝびくに治まり

まして後應神天皇誕生
ましく今御勇
文勇拝大
明神と
あがめ
まつり



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

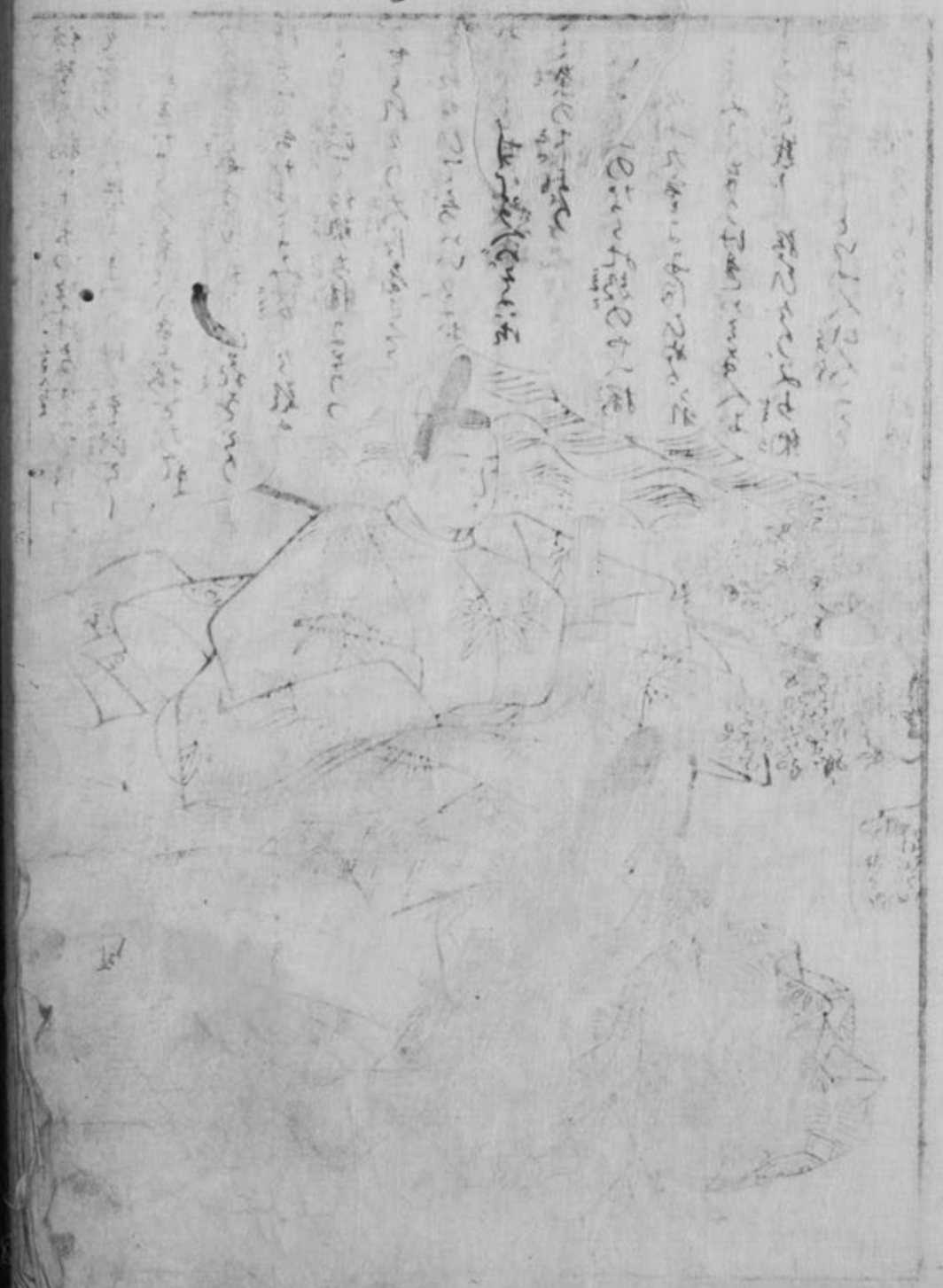
未深夜つゝ大陽寺時明ゟ女武い
平氏盛ゟよもいつ大江匡衡
が孫あしなるをめつら仏ぞくをぐ
さ和ちいわ永式ア仏くなる称
ぜうれ〻そ〻ゟ佐氏わてう門人
筆花抱行とゟまる妹仏うて世
ろくのうつをいとやさ〻うきみ
せう今は世ゟいつちまで老物
こゝ祇老女を歩つゞ子の
摩周勢良一とも病ふう
仏うをごかくいさうけまど
月日仏うされていとでおをくる
つゝゆをハ陽つなのめう手す
なう〻そ仏ふう〻の社よまうで
う摩周らいのちゝ仏らんるを弁
ゟア〻

かそ〻むといの乳氏ハ悩ゟそ
ゝを別ゟんゝそ姓〻を
とゝふみぐを祝ハはやしろみえ
ゟ西夜〻をるゞ老ゟはさ〻
くは弁あうまゝを祝ひゞ寿
を陽ゞづう〻えのうちへいま
ゟんとおゝひく老まゟ陽つ
いとなやく〻そひつゞそれよう
ふやゝゞはゞうなるゟなうゞ
うやこそゞむそゞ〻く日ゟ
そひゝゝろ〻そ〻るゞ
ほゞなく辛金〻て老ゟと
〻ゞひく〻羽弁ゟすけと
いゞどみ和ゟ性なうむう〻ろゞ
ゝゞゞくあるいゞりもおはくゞ
かゞれは利生いゟをてゞ元来なる
ろ

Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

伊勢大輔が上﨟ふつ候れ給ふ女ふそ候つ
もをうくいはうまつうけるまゝにこゝ
ろよき所なうの系ゐ八幡を拝をなてき
つゝなると毎まはつ乳アしをとうり
けるそてちなどよみ給しく候ゐ
くしハ改て伊勢大輔ふうつ
ゞそれうり大弁殿さそ
をれゐひて云いふおも
ふしとち、うへゞそこ候
とこ衆の下ようう
いうへのなうれ候のやへ掃
ゐ九重ふ春ひめる紅
こうみくまうけきゞそふ人お
ゞろき銭ゞ給ひうゐ少納
言殿ふゞ〳〵とて人〳〵
ろゞし候うけるゞそゞ給れ候ゞ



いまめやうふかゝひゞそ参れ
まうこふおぶなるむふかそうゆき
候うをうふみく
うと拾うれ折ふ森ふあうさや
へいれあゝのむとふむろう紙
などのひやうつてうそうるほどう。
ゞ納言ふ給れうこふなうてぞくゝへ
ほうゝふ八幡もゞゝてうう候
れくゝさ系なる女房をけりくゐひつ
うけ



ううねどもおなゝ給いたれまを
あそ申ふ井戸つゞそけう
しゐそつうもいてやうくくなる。お
ようそ上ふつ候へほうゝ女房をを
拝をゝ候ふのほまれうゝ
山ゐなる補沢ら毎なる名伊勢大輔と

Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

小式部内侍わかれ
十一歳の時母と後
して伯よりふるさと
へ行の時
母
うびあそよ
ふこなきかをめなで水面こう
ちくそ
ちをねよこそ
ふ面もかーこまろこれをねらふ
よそまろふこころきもとも立らわ
ごけきべ和泉式部をとりけ
ーれをうふよもべーと勧めあ
きべ式部小式部ともせきあうん
とねぐひて伯者よりー出ーけ
さべかーこまりて母こむひぴまぐ
よよ振ートくる。母それいと去
かりけきべ

ちそわろ
波乃上ととをかろなろ
とよみくれぐそ
いろ
肉付とめされろうこべくふ小式部
秀句とあくようみくれぐくそ
ねそそへ母式部がよみてはき
母我こそろとさくろあち
口惜くそひくろおろー母式部い
母後まこ付ろくる江加こ合る
てふ式部もろよみの報加りくる。
宝我ご局よまて母式部ように
むそーなぐ我まろのをぷ式部
大江山いくのろ社をけきぞ
まぐふそそこぐ天乃そー立
よくそれぱそまろくれ石を止ける

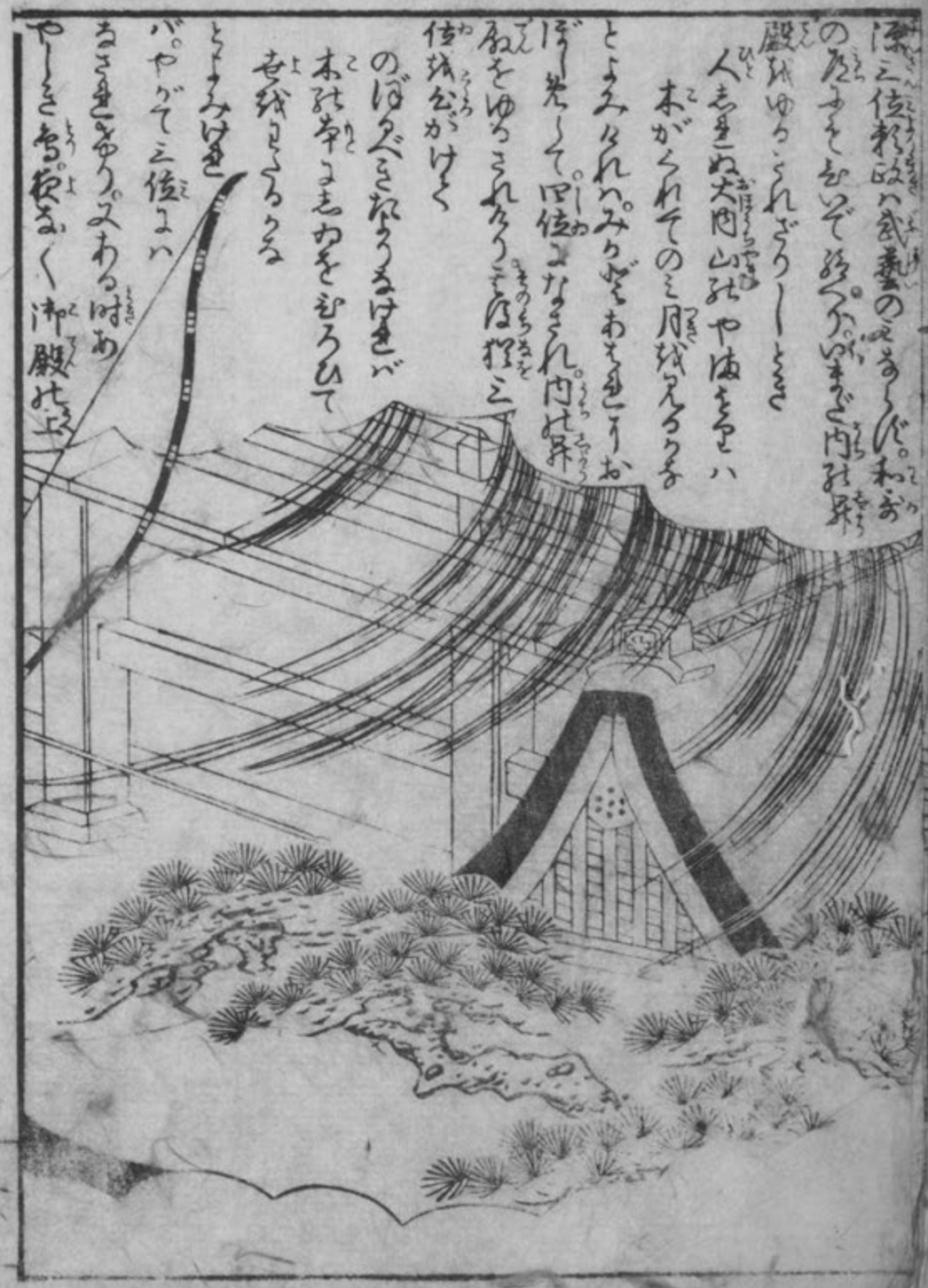
Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

深二佐衛政八武藝のえうしゃ。和おの
のをとをもいそぎよくいまだ内より
殿様ゆるされざるうしゃ
人をまねぬ大門山みやはをとハ
木がくれてのこ月ばかりろうの
とよみくれいみやをおさをまうお
ぼへ先うて四位よなるれ内より
あをゆるされろうこと存ぜ
佐殿公かけく
のばるべきおろうけきバ
おれ弟こまわをむろひて
せ残るろうろ
とよみけき
バやがて三位よハ
おさをきうつみあるはあ
やーきをもて放るく御殿より



まうおそろしくゆうてみうど
おとろかーまうけきバ弟政
うを残おをうーゆるぶいはほう
びうてあやめという男人残
下さうなるまかうこほしゆう
なる女性二人出されくそのの
人をこえうびてうるべきうう
みこのうなうけきべうはゆ
さまさ
はうぐれ泥のまうをく水瓶
いぎまわやめとうそうぐゆ
とうめうけきいみかとうぐうる
く奥せこせめひ男そなんぐう並人
よとて女房して出さうめ下されを
ハ弓矢九名をわうみをのこなうず。
和おれほきを」ホたぐひなかうけう



Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library

関防肉付ハ法花家ニ生てうまつり一名ハ
るゝびなきこゝろにてつゝしみ上ることを世ニすくまれ
そう。そふよつて肉をハ仙洞ニもはゞかりいとぶかくこゝろ
月くまるくおもしげなる事ハ肉付をめ
されてこゝろえと添られがうあと
かくそうさやけき新いうの一つの
秋のそうもあるとおそふ
みごと大きさよかんこせまし。
みそのゝちれとも二月ろうそ女ともに
こちこゝに人二筆焼ふようかて抱かゝ
ふーうなどようみあひろよき肉付
抱ふようふーつおそをはくうもぐな
といひそう。大きごんたゝ加てハかねてハ
肉付ようくうる人なるゝれふこ手
乃外うそこれをそゝけうハまくとを



こんといひくかひなさゝ出されるをべ
ない一
春れ秋のゆあはうなるそはくうよ
かひまくたゝんあゝそをゝくれ
とようそうけまごゝ加てくゝとおば
くて
契ありてこれようこゝたまてくを
いつかひなゝ一曲めりそ手づゝ
うをふようみまてけまこゝへるくひ
あてうる肉付れのかくけのたそうま
ふようそうゝをゝたゝまてれいてこまこと
うそひへまてそれようほふむつほ
くいひきそえりうゝくてた加て出
当よなうてゝのまこそうかひくの
へえゝくおよぶきまをゝ絶よう
ぐとなうまけるとを



Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library



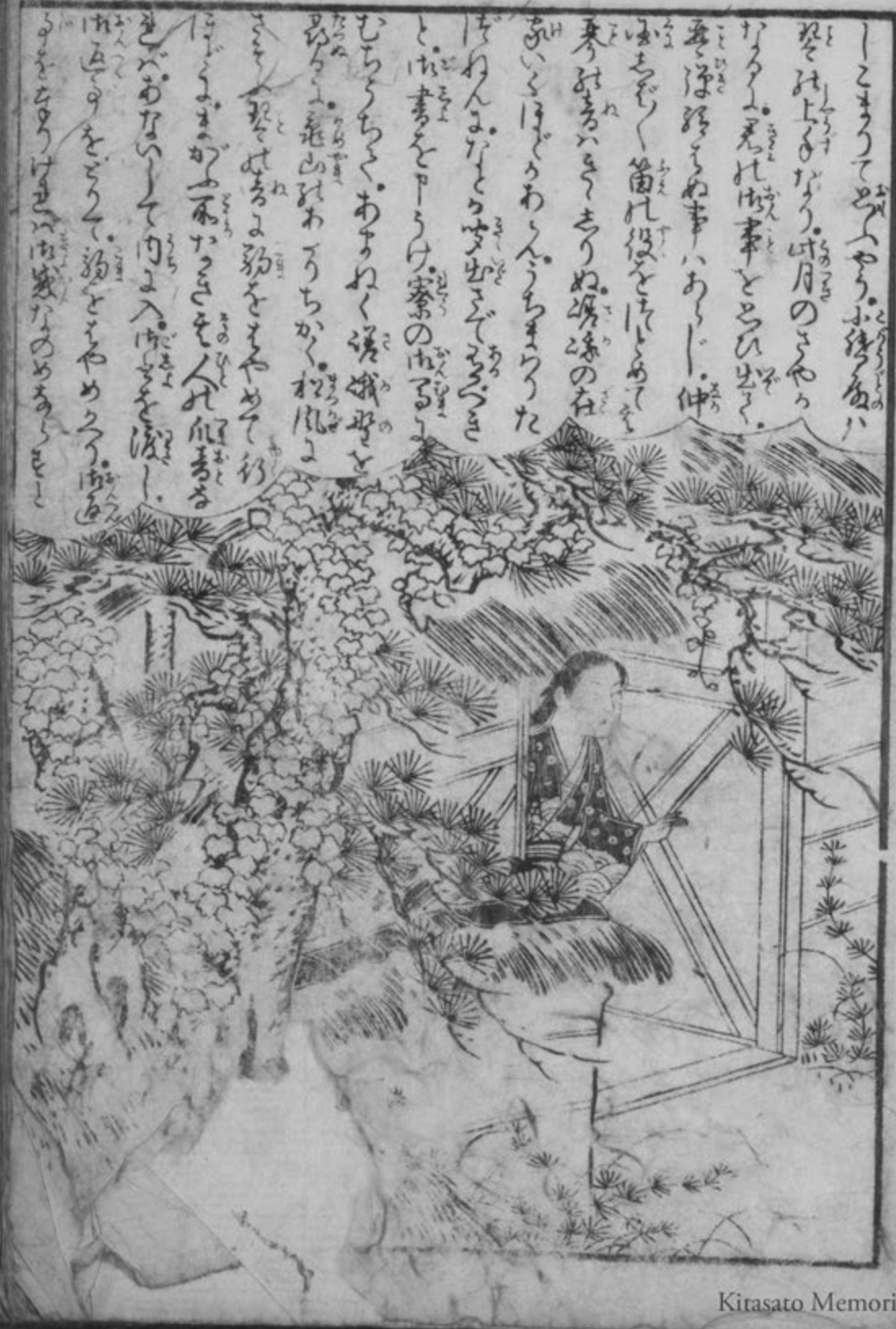


Kitasato Memorial Medical Library

小督殿局を採町中納言を始めとして数の殿上人第一の美女ようそ。おもかげようそ。ふるまいようそ。なりようそ。倉渡の神もうよとそく御衣もうぬりのなりうーかじおおぎまばかり髪ふかくふくこころ絃おそれてあるや夜内裏をまぎれ出て紛方もうまどなくなれべき上なのめならずるげかせをひろる。法ハ八月十日ころまりおくる月もう上ハ袖涙ようもうしせ給ひや、深更及びて人やあるとのぞみよ。大納仲國。いくやれハ。



こまうてそくやう。お待ち給ハ。



Kitasato Memorial Medical Library

佛御前かの宮園を考へくらふ暮乃上なり。そこに平の清盛公。祇王祇女といふ兄弟をめうにくしとさ白拍子を残そしおうるを。祇王もおもしろかりける。一とせ仏御前参上しは我身を一奏曲舞と入ぞやとおもはかりなれい。祇王もあんほどいかなるまでとそくさるる。祇王なさけをかくて仏を入てまいせるふ清盛公たちまち仏ろ仏をまつしめ。祇王祇女母刀自ともろ残美ひろり初祇王ろなさけくく仏を入きたるよ。たのこがつ死いせ弟のくんれんなりとて。御前を立出るはれ有れ志



おろしつ付々祇

をえ出るもかくそれなりかぞへの事

いけまつの秋うわらでものづき

仏御前有しき残んてかんうくと堕る

祇をのくなりしびおとろふる事

をさしろり。ゆき今をえ出るまなる

つとともかくそろふ花乃

ろおろしろへなび老ろろ社秋

まりて。そひそてられんとうさ

うふへかくぞとそひ宮めし。

祇王ろあく残まつひ出く芸よ

深緑ぬれおくこそうかしら

おろしつほれ世の事をのこいと

なくくれとそ。ゆくれをみる

いほうれ法とて。今も清涼寺乃

やとうふ残里ろ



Kitasato Memorial Medical Library

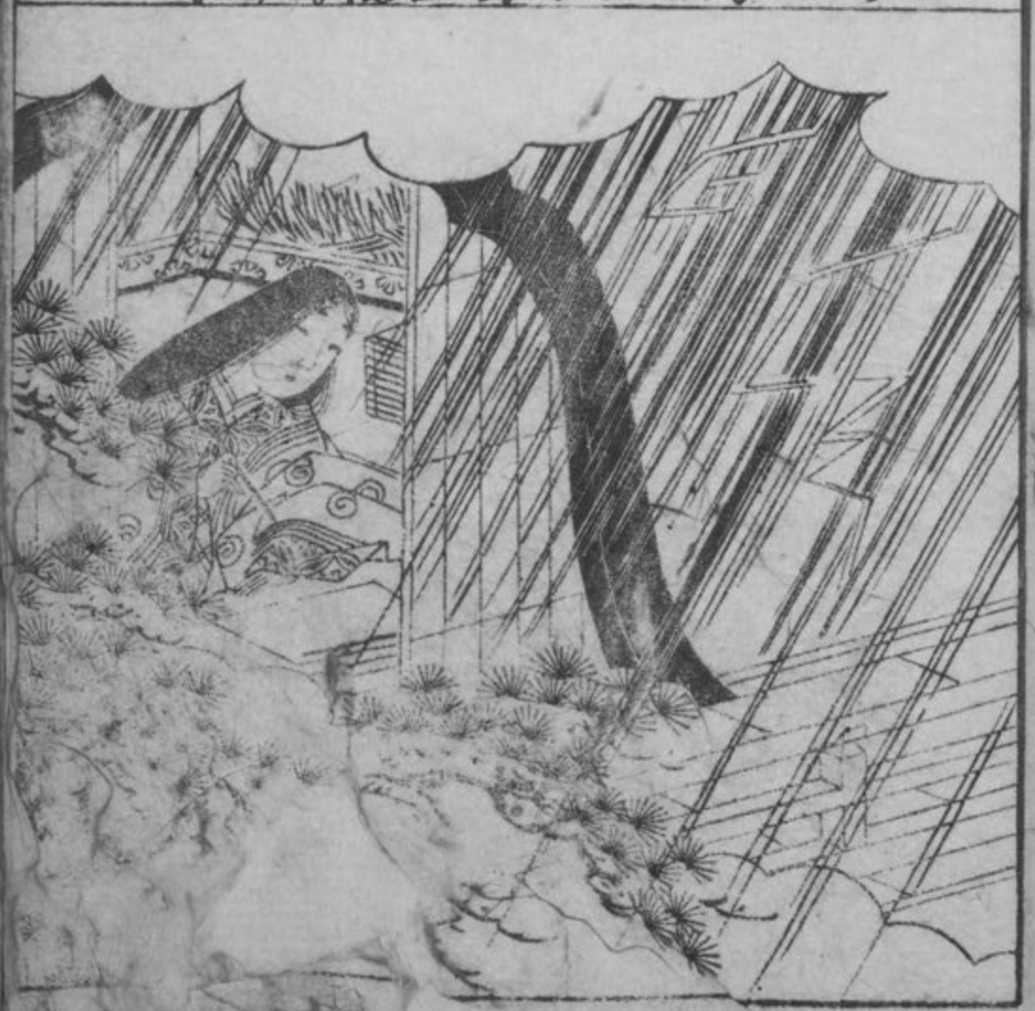
倭姫

倭姫は人王十一代垂仁天皇
皇女にして皇女なり。御生付
賢くみて。賢徳おはしま
せることひとしを女なり。
垂仁天皇即位の廿三年丁
酉の秋伊勢へ神社御告ふよりて。御
娘倭姫をあねぐ。御母
ようやくめのまえ。田舎乃
御指ふよりて。伊勢
国度会郡へ十餘里川よりは
猛なこゝめぐり。こゝろ
新宮そなえ。神まえ
定めし。御勢社まで
いみ姫えよりはじ



倭姫御教子

教子は。浅井家院はれる。
をんさ世ふすくれば。ふさ国を
御巡行なう。幸かくそのの
て給い。朝夕ふ御祭りぬ。
道筋修一。これ物語を書写し
給ふ。あるは俄に書おひくしく
ゆくあさ。御船上より落ち。
石ぬもそれいそ。御国を
さぶおそーうそのまうく
えのつ紙うるあ火ち。
ふうふ出ーのる種
えのふう。御衣を焦れーうぞ。
御舟ふなうーそ。第八
十二うく行ーせう



Kitasato Memorial Medical Library

延政門院

延政門院は後堀河院乃皇女なり。御母は大納言二位殿の女なり。御年廿餘歳にて。御心ばせ優にやさしく。御智勝れ。もろ〳〵の人仰ぎ奉ることなり。

ふたつの文字半ばかりを出だす文字ゆゑことを〳〵そ

おばゆれ

ばうれ。ふたつの文字いこの字半ばの角をいれ。ふたつの文字いれ〳〵れまゆがことの文字いくの字そこい〳〵くといふ事をよこのへんに幼き時の事なり



光明皇后

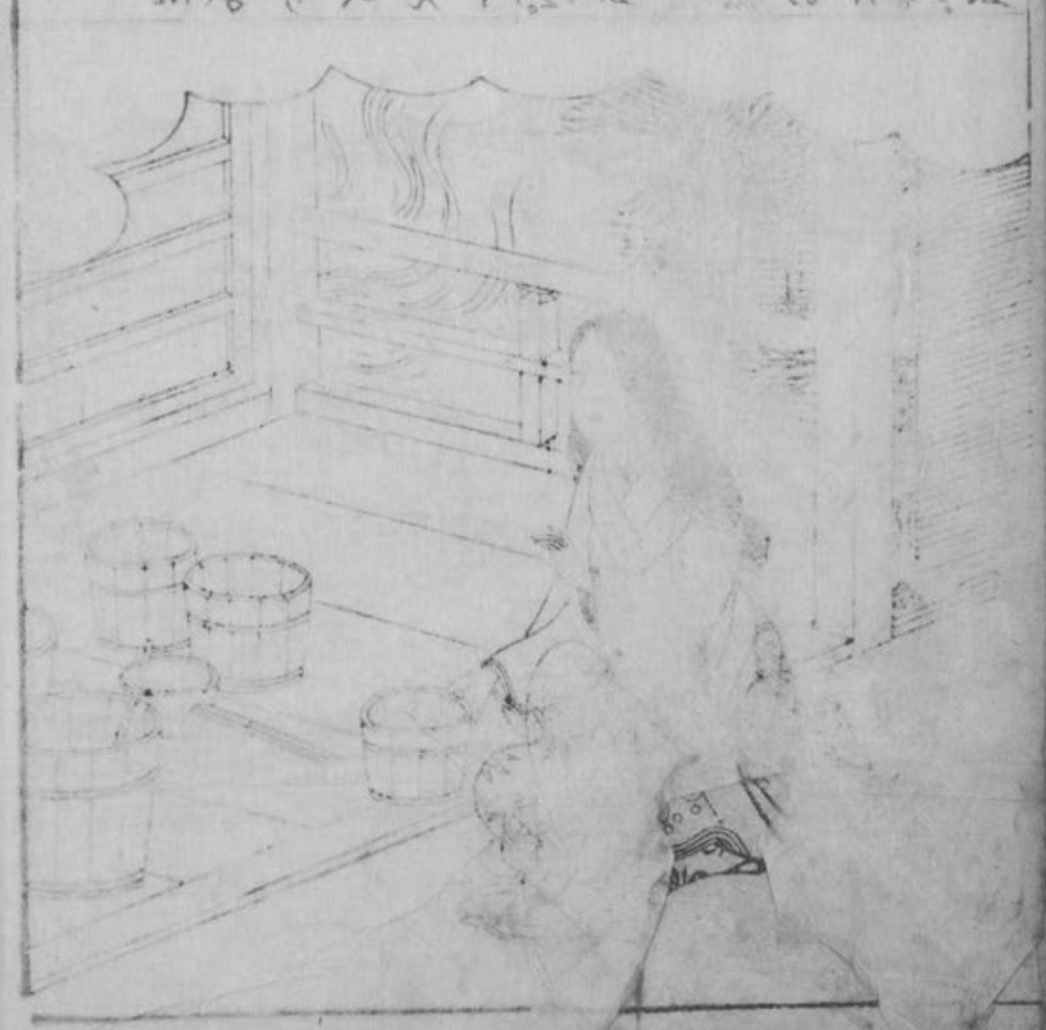
光明皇后は聖武天皇の后なり。学文を好このひろく学給ひ。施浴を建給はれば依りて多くの人まいり集まりて浴室を建て。おん人の垢をかんと大釜を起し。已に九百九十九人まいりて。一人の癩病人を。

見たてまつりそこなひ思ことの外なり。

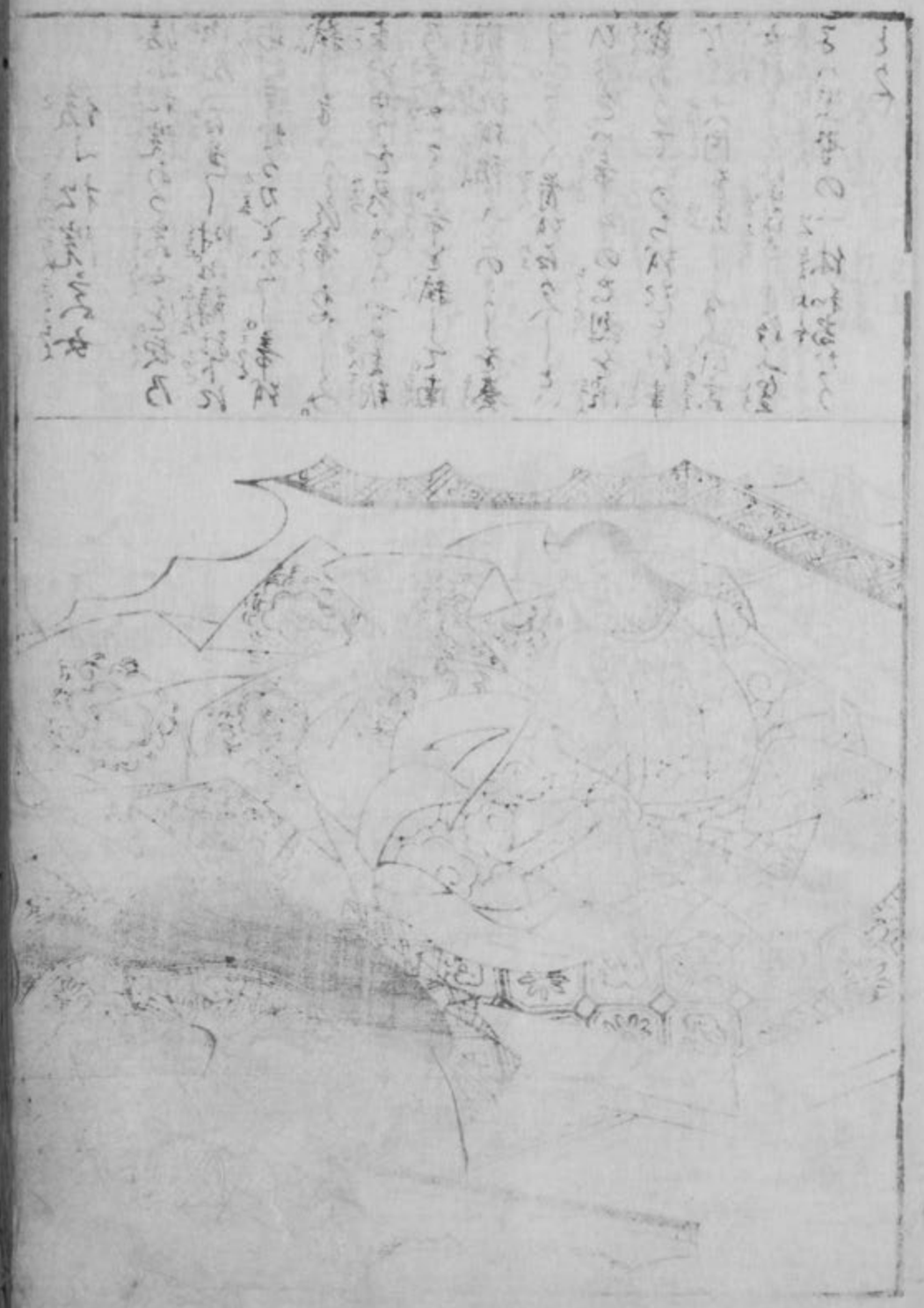
汗をし。流れども〳〵垢めを。いとゞ拭ひきよく。癒をいふ摸給ふことのふを。時かの癩人大光明をそゝぐもちて。我いの因仏なろうといひて。舐ぬ。この因仏なりなまふ。



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

後小松院之女

後小松院ある女を抱乃
ほどなく御はらめるかとかく〳〵事ぜ
ざるをきんとする事ありしみ。
幸ひやうを見〇のかみ重朝
乃文女うく事を歎して。南朝
朝れ仇敵給んのようを奏
し。そく貢給ふ〳〵といひ
ひらをび事その忠烈を感
感ありていのちなたをけ。事
なく大内を出〳〵ふ此文
女れそうに出ぜ〳〵ふ望
まの堅野の一体和尚なろ
とぞ



今出川近清

まで有るの名
主清いう司将中納言侍平
の娘なろ。兄弟なる和歌よ名
を志ろ事て世よろしを清
九歳乃時父沈永という
をわろくぞ。ねぜ〳〵兄
弟みな病氷をよむを清い
人とはしかんもあげな〳〵
とて。沈汀の屋敷をよろう父
此方をえく大よ歳〳〵此歌。
中ふも秀逸なり。俗老い誰
なろんとよをを清なろ。
い。歌仙を列よあづろべ〳〵と
いひ〳〵其ほめことくあ代れ給
撰よぞあまさ入られろ



Kitasato Memorial Medical Library

金沢の才女

加賀の国金沢の城下に、俳諧の宗匠、武義の金沢城を守護して、俳諧の時流れ、くまこの民のまことをうつし。筆あらば伝へ〳〵といへば、十二三許りの女子ども吹の花を一枝折出さし〳〵。おもしろき句にて入れ。乃ち清水不良〳〵と立ち去る。ひやうおのづからいまだ旅人を見ざる在て。あれそこをやさし〳〵と人乃ち〳〵ろよ。いと七字八字程ありけども山吹のみの一つたよりぞかし〳〵。といふ古歌なるといひけるまに、道清水と聞て。志を励し。まことなる人と成ぬ。



横笛

横笛は。高倉院北面の建礼門院に仕へ。女房なり。斯為滝口の侍斎藤時頼。ふかく契りし事ありて。ふたりの中を引さかれ。時頼は。出家して。名を滝口入道と改めて。嵯峨の奥に住ける。横笛は。うらみなげきて。ついに尼となりぬ。



Kitasato Memorial Medical Library

○女帝いまだ人王三十三代崇峻天皇の時一ぬひて狭屋姫部佐一のふまごを推古天皇といつきをはしけるとき聖徳太子仏法弘通の願ありて諸寺を建立し給ふ其功望有あれども佐一部臣そそのかし給ひて天下の政をさまらしめ給ふ。其代の教よく入るしるしありて上下一望をまもりて武天皇といはるゝ。聖徳太子は推古天皇の甥なり。父は用明天皇母は穴穂部皇女なり。幼名を厩戸皇子と称し奉る。いまだ聖王と申さず。なかぬ姫といふ。女一女二女三女とぞ申しける。

○天子御母君を皇太后とぞ申しける。御母を大后とも申す。又国母ともいふ。女院と称し奉る。敏達天皇の皇子と成給ふ。御母は推古天皇を称し奉る。御門跡とぞ。御門跡と称し奉る。御門跡とぞ。御門跡と称し奉る。

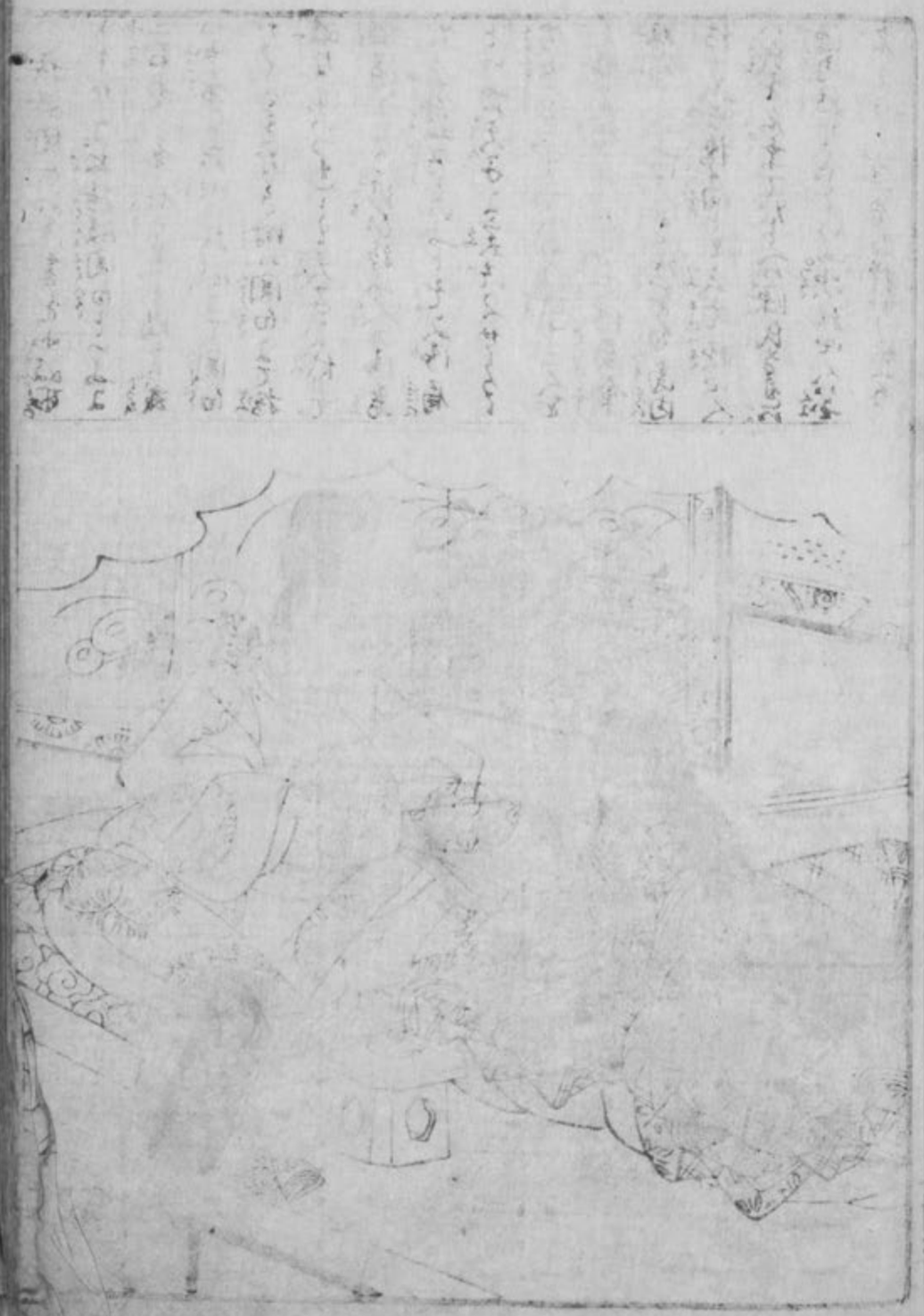




Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

○按政関白の妻を北の政所
とも申なり。按政関白とつゞ
三ありて。第一の女は按政
いへ者。つぎは按政
なくさをなぐさめは関白
政なり。いづれもそのよう代りて。
政道をとり給ひ。此人の御妻
なる方政所といふぞ。又御局
といふは。女ぼうの名ぞ。
女なりて。十二人あり。此十二人を
三階一列てう。勅局内侍局令
旨局とつゞ。次を自局内
侍局。其局ともに。次に
い氏をなのりたる人。源氏なる
源内侍なんどいふ。次に
名を付く。伊勢お祭なんどいふ



○玄方大臣の御妻を傳奏局
とつゞ。禁中へ奉公に出るをいふ
お舎人ろうこと。
つぼ。人皇三十三代の御名を仁
寿乃御局といふ。此人あり。
なくひきうとよぶ人あり。
時乃大臣よりうまとなり
ふうりの名ゆゑといつまでとその
正妻をもつぼね。三河局上人
妻帯の公家中と称する事。
○つぼ。簾の内にて
そつぢう内を治め。御下人
とく。みぢうふ人と見こゝろ事
なく。簾中ふかくおくは
なゆゑ。簾中と称す。
とやいつれにぢうしん称あるや



Kitasato Memorial Medical Library

○大名武家まをそして小
武方といふ事小の陰陽方とて
如もと陰性なるものあるゆゑ殊
多くて小陰方といふとぞ夫
は陽こそ男なるゆゑ其もの
陽の小の陰をお射こせ陰陽
和合なんてふ名付るそう。
小乃政事らるゝはし事ん。
小の方といふ名の出大将軍初
ことはようなるといふ。又五
位以上乃人の妻を命婦と云
る。庶士にて結髪て妻をず
ぐ夫人といふ。其日幸れ小の
方といふ。又一下さるゝより
下さるゝは女房内義内室内室
と称るなり



百姓町人の妻はまた名後ろ
を名ばかり称ぐ。なぐ妻
といひ内室内儀などいふ
なり。女房といふ格平人
ともなへ名ゆゑ号うて。その
称ありてぐ。ぐ
乃等ありて。名称は夫なり
といへども。よく女のことをいう。
揖をとへ。くるといふ甚
さまことに称へ。ふ女
衆文衆ともぢ。
孫より下ざまの女は衣類から
のぞうまでそ。そらばとう
ありをそへびつもれそ
ばひ抱ひおもそなるぬ抱
又男をあるまにへ



Kitasato Memorial Medical Library

古今遊女詠歌

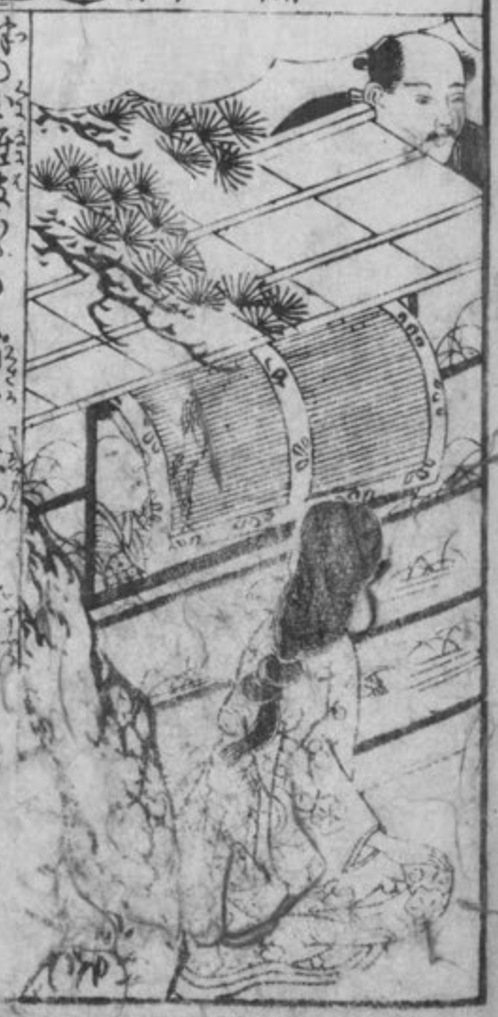






Kitasato Memorial Medical Library





はのま雅俗あろうよ。旦那つよ
が。世こおちぶ
かしく拙ござ
妻なうけるこの
ど勢うおこそ
そこあるを旦な
来てばかりん
そうそしとろう
ここほなるよ。

にこうしてお向ふとて所を往
往るまくよう大計る事最
能処花まかりわるつゞで。
水ぐんとそうちょうこと
ひ待うくれゞ水をお撒て
よく待うそろ

桂姫の姫
年季をバ勤まると向川の
こうぐむまで先こくるる
命れこそろいばしいとらうあ
うそ。おうこう来ればくるりの
かうしこかく走て舟となし
を。所の名よせ。打出る水よ
そくくよあう。こうぐむ先
かぐまうくる魚をいろ



Kitasato Memorial Medical Library



手にさゝげもちて伊勢よりつきいつるふねにのるうかれめをみいひていはく

伊勢の物がたり

幸こそめよ
まごころずはうまなる
物をやるだと

いひてやりけるうたのこゝろは見ぐるしきものゝ名ぞとこそ紙にかきてやるべきふるぞくるしろ

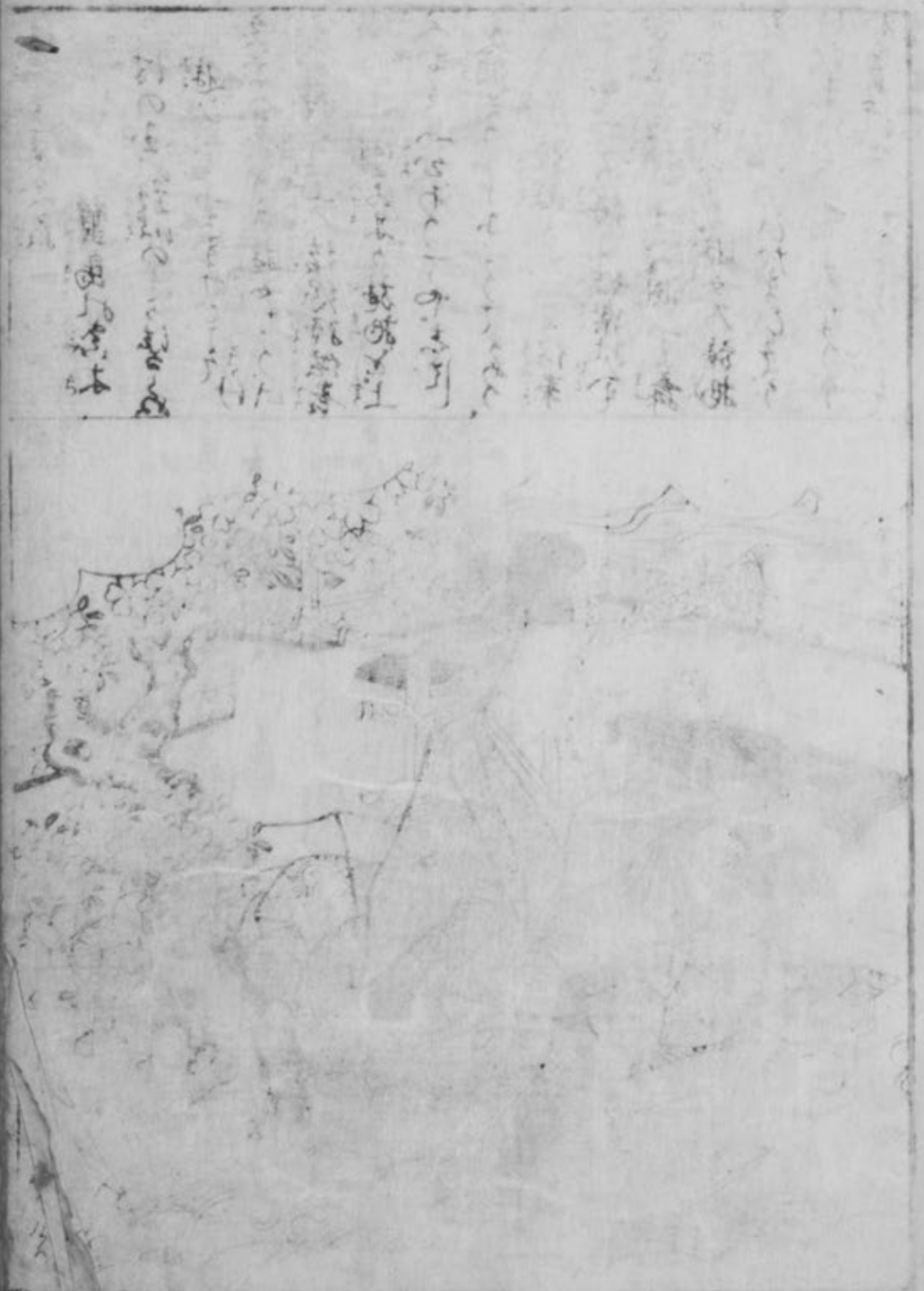
えゝ
まだそこにこそ
きくれゝばら
むゝるがれ
名ぞたゝつゝぐ



花のおいみの
ふねに
乗ろ
吉田
名
Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

鳴るる嵐

面影ばかりへ一の
風もまぜぬ
ねざめのとこの
さびしさなるべし

浦のその昔はかなき身上乃
名たかき妓女なる事ハ
殿造あり。むかしより女童
ハあそびも拍子とりて
琴ハ必ず嵐をそだてめとする
よし。法書にもしるし。爰
乃んいおひめる男も風の
ようもせぬ思ひをまぬかるる
そとうこのなう思ひまつ
ふる時しとそつれなき





松風村雨ハ二人ながら須磨の浦に名たかき
の中納言行平の卿に愛せられ
くまをて名をのこしぬ。
ありしかバ行平卿都へ
て。ニ人の女ハ
まもなくおくれ
ろ〳〵となげ
る。まことに情ふかき
ハ女ぞかし。たゞかりそめの
ハ男ぞおほき
をとめおいやしき
ハ男ぞおほき



Kitasato Memorial Medical Library

千載集十三　こゝろの仲変
都にて彼中納言もとつねまうで
きて女を具して下るよし
いひをこせて侍りければ
つかはしける
都にて
君ゆへぞ身をも人なみおもはざり
ひとりも月をながめ侘ぬる
分てなど八月をいとゞ思ひ
そへ八世こゝろ人も事なるよ
をとゝしよりしめ縄ゝをうかゝ
独寝のとこさへもわびし
行ゝてなどもあらがほなく
月ばかりむかしのそらと我
身ぞ恨なゝめをかこちて
よめるなり

姨捨







Kitasato Memorial Medical Library





むかし一夜の枕かはして又帰るあふ一夜の枕かはして筑紫へくだりしに女の心ざしあさからざりしかば別れをしたひて二日三日とうちすぎてはるばるとおくりけるに女の曰く我ゆくすゑ遠き身なれば今一度あふ事かたしいかにもして我を乗せてゆけと泣きかなしみけれども男の曰く我は都へ帰りて又妻子にもあふべし汝は遠国へ行て二







都の静は和





自然居士はそのかくれ家を出て二七年の少女小袖一そろへ卯杖を突ふり分髪もろ共居士まわりの所をそこ〳〵少女の屋をもろこんぐやんひよろ〳〵なるみなく〳〵めらまてう居士こま〳〵そこをうく〳〵ねんごろおもてへ人〳〵居士毎日〳〵そこ〳〵をやりけそこ〳〵いろ〳〵乃もてこ〳〵あさかう〳〵ぞこ〳〵



芸者と人とうらけばかうれやどれ
ゝとむるとりげうぞ
うたハあれ法師江こてるまひやどう法をけるよかごとけうこかうまやどう法をしむ男そとよみ一百ち。
のおてころ学校いとゝ人なうだかう来ゝやどうてんを歌めたまうこうまうべうぞ。
それもち宿をかそゝとるゝ一つま宿を持むゝおらもこゝこそえうゝへ休なかう。はお残芸を集ねゝ出ろ

Kitasato Memorial Medical Library





偶偶侍従

東路へ急がんとはすれど
我も都乃かた残るながめん

こゝは新後古今集へ洩たる
ほど青墓に宿よりまうで侍る
ものから詠てぐしたらば
ほどきそへてと

ころも都は旅なれど
花ぞむかしの
とゝろ〳〵



百萬は女ぜんなるそでをかたしきて
ひとりさよ衣
なるそでをかたしきて
ひとりさよ衣
さむしろに
うつゝなき夢をむすびて
うつゝなきゆめをむすびて
ようへ〳〵と
いふなり偶偶は
我も都の方残るながめ
をこのはの
ちり〳〵
ハ
ちり〳〵
ハ
ちりぢりに
ちるとも
ちりぢりに
ちるとも
さらく
ゆかん
ゆかん
ハ
ハ
ハ

竹取物語大意

竹取翁

行れお役人達と他といへ事洋なるべし。お役人共を
のなるべし。源氏物語にもそれ
ふるさとみなり。若さるさのみ
ちることいふ。竹の林に入
て。竹を切るとて。竹を年よ
うさなるまゝいひて。かよ
つるそれなるべし。なよびさ
美人にて。昼夜とそれぞ
いるがうと人間にあるべし。天
上うりてをる。天女なるはし
をあゝしう作るべし。もと古
風にて。をさなうをなるべし。



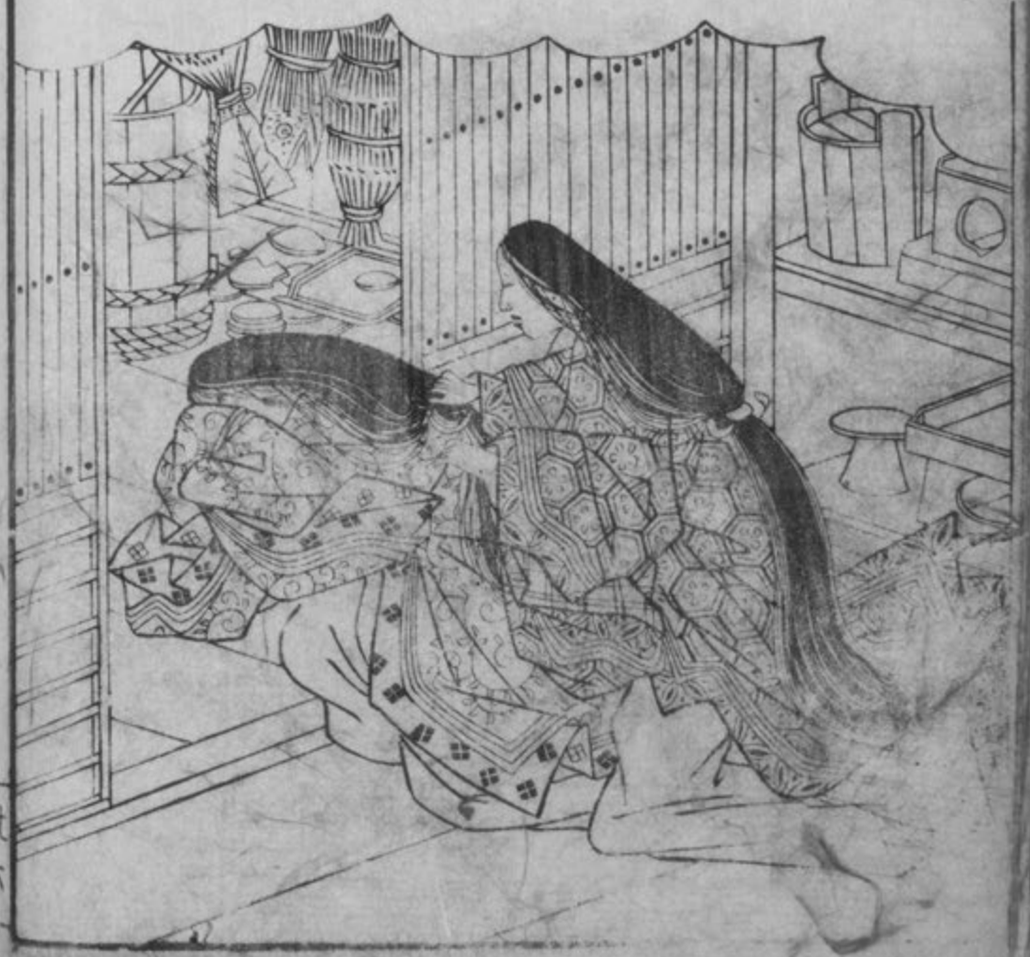
竹取翁

此翁ぐうち
此翁ぐうちも。天仙老洋なるべし。或ハ源順なる作ものるべしといふ。源氏ものるべし。竹
乃翁ようにぼの仮名を
合せてあらそふとあり。
ふるさと物語なる事。もち
ろんてう。若仮名ものを
書てう。異国ものを
ひやうなるひやうしを
ぬをきこのそ物語。孝行ふう
て。女仕昇をゝ〳〵事をか
ゝるべきなり



Kitasato Memorial Medical Library

おちくぼ物語

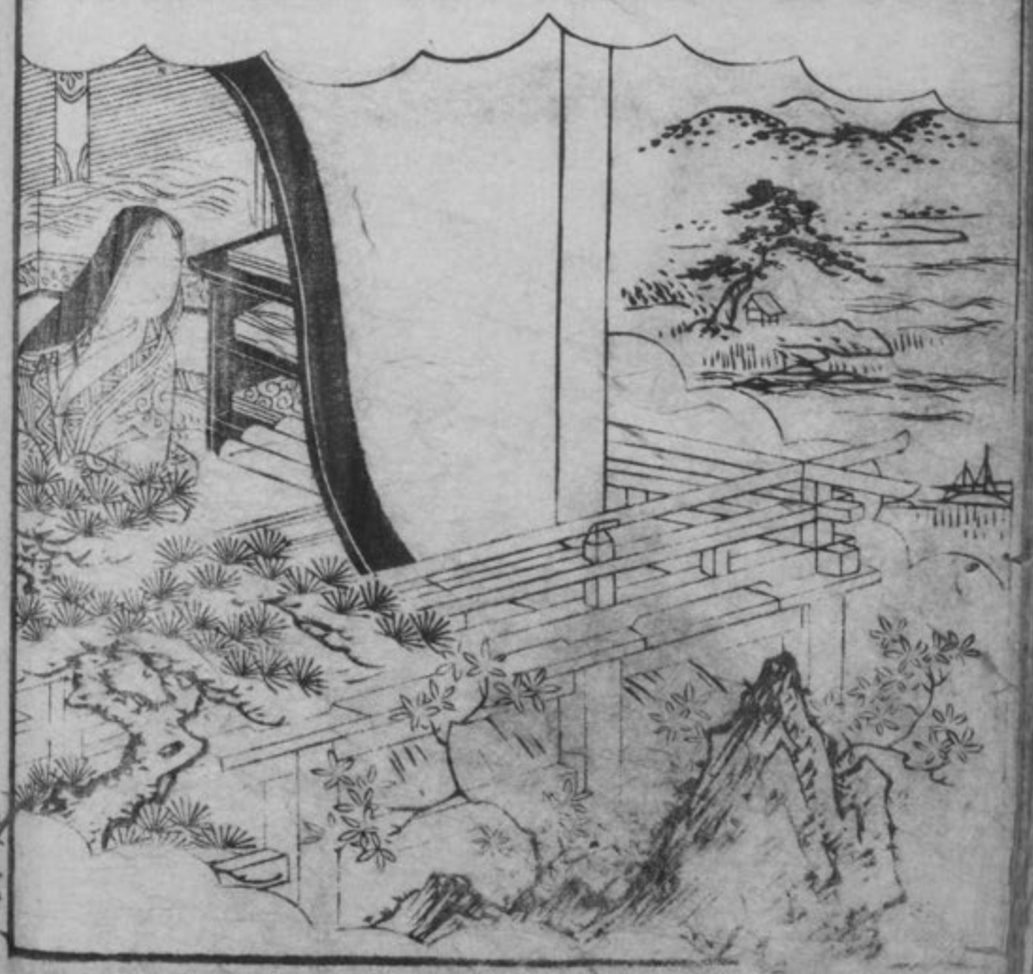


伊勢物語

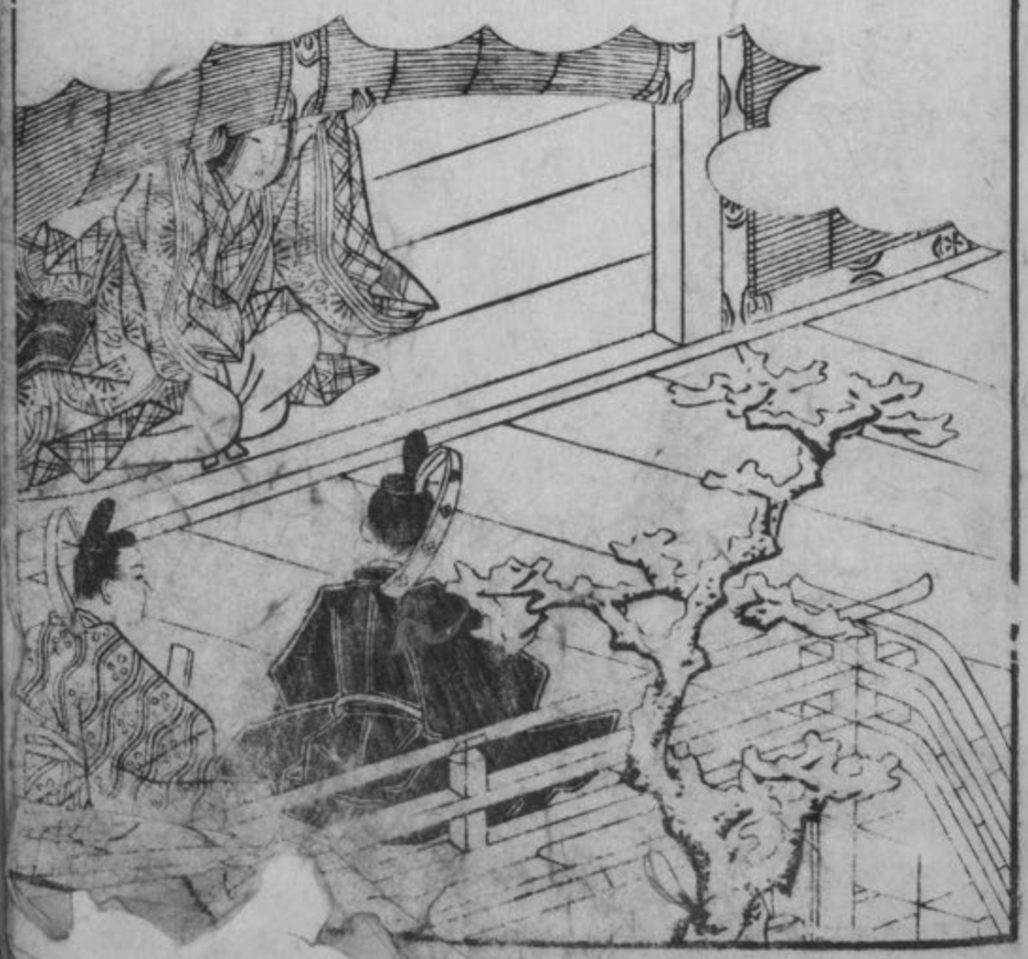


Kitasato Memorial Medical Library

源氏物語



桐壺



Kitasato Memorial Medical Library

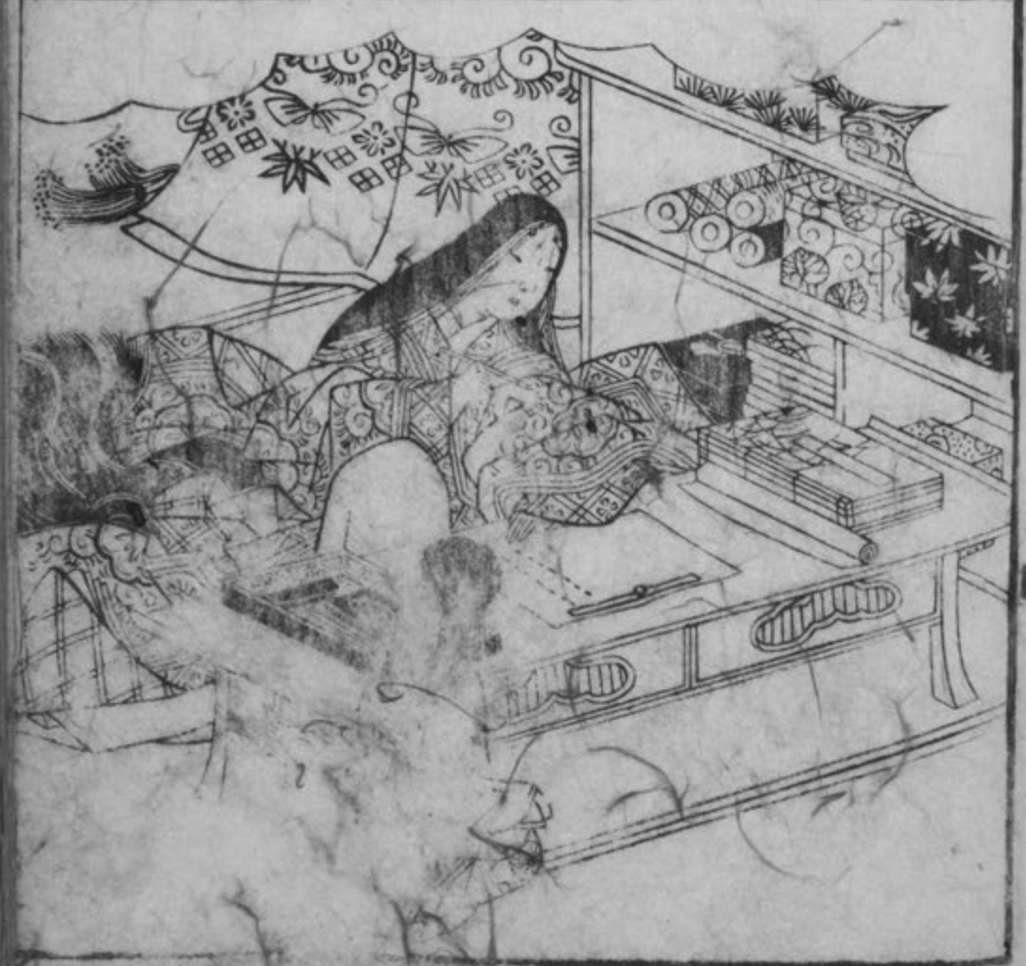
栄華物語

世の赤染右衛門といひ
ける人のがうの人ゝの
望により、後朱雀天皇の御
代にて此の御門中宮拾
遺御事をのせ奉りて、
その数廿巻あり。此物
がたり、装束の事、有職故実
多きやうなれバ、よく〳〵後考
つく〳〵大よそあり、栄華のて
乃ざうと称し、御堂関
白殿の栄え、のさうをそ
なへ、いつくしくめでたし。赤染
衛門ハ大江匡衡の妻なり。時の関白の女、大江匡
衡に嫁なり



狭衣

栄花物語に、大貳三位
源氏物語よりなぞらへ作
り、源氏物語に成就して字ま
ぢかうはあれ事なり。狭衣
乃大将をえて作りかへ
がうまく源氏をよみて
のち、かくぞよむべきさ
なり。ほれ人ト細かふ
字句をつゞりそれ物
語の段をもそろへて、源氏
計同安のごとし。三位は父ハ
右馬頭佐なりて大貳成ま
で歌よみなれバ大貳三位といへり。後一條院御ほめのとく



Kitasato Memorial Medical Library

大和武尊

いそのかみ八十余巻辛酌
浪おし次男源春の俤ともえ
花ふぶき俄も御俤もいつも桂
垣ぬ姫ぎみ事、生田川主を
救ひをうめ猛ぼこの心を
一条女映松ふれ事なる
ど残もうして消ゆるなる
うてそも人を論じそ事
をこぶしそあを述く今石
八十船有残出せり大和武
尊とをひ一事いるぐ洋なる
らぞ、ふの人のうぐさせな
うう一伊勢原氏ななぐく。



當流俤違紋



ねばりま



むらひ蝶



尼公

来ると勝れる浪しぶ女を殺
を刺く。俤ふなくうを尼
とつふなり。日本うう尼社
ちぢめ、敏達天皇社時、大
伯馬子尼ふうう石油の
習ふ達が女を剃髪せ。尼
を名俤とつるうう尼等業
後天皇ぬ翔ふ尼名俤おを
掘井ちう俤せもうう始
やう。さ八女社尼
仏を俤ふ剃髪
ども多
律坐国なうう
ぶして髪を切ひ
示そへのがう乱操なうう

夏かるかや

揚羽の蝶

むくどり鳥



神子

一 神楽の儀 神楽うたうの時 面をかぶり 神おろしの儀 又は悪魔ばらひ 八人にて女を用ゐるといへども 八人の内子を用ゐるなり 又は八人ともに女ばかりにても 又は男ばかりにても 又は男女とりまぜても 又は神楽男ばかりにても 又は男女ともにても 又は神楽なども 又は男女ともにても 又は神楽なども 又は男女ともにても 又は神楽なども

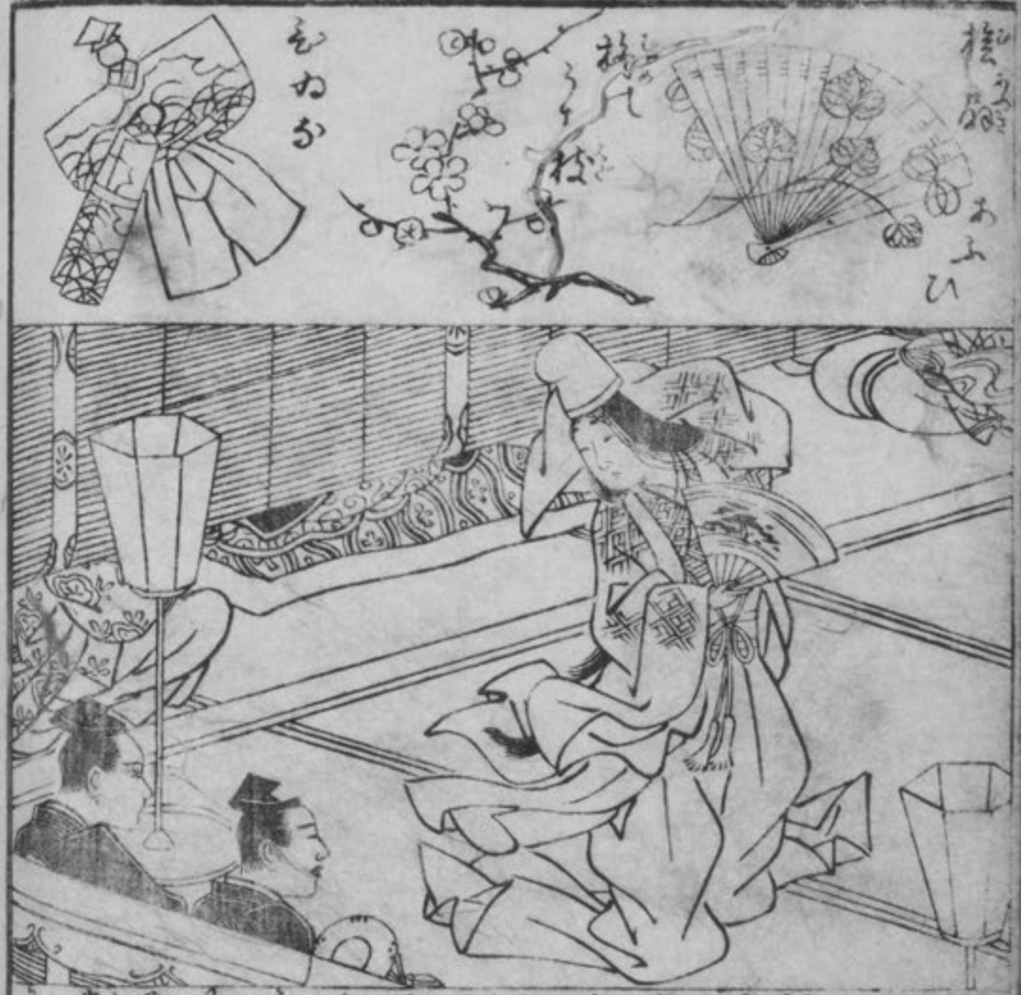


乳母俗ようをとゝみ
こゝちおしらいて、そら
そら海鼠好女をもとめ
て、昔不合そうをきの
ふ、乳母をもとめ、
御妹君御姫様をこゝ
不合そうを吉育し給ふ。乳
母さうめるごさの、乳母と
めのとくいふ事也。玉依姫
尊よかうの一緑ふようの事
乃事といふを略してめのと
いふとぞ。源氏物語(さうせうし)の
妹子君(いもうとぎみ)が姫君(ひめぎみ)月壺姫(つきつぼひめ)と、乳
母(めのと)ごめのとうさ



皆女
信濃木曽の名人
かうを作りて
ひとをもとへる
ゝとゝいふ
方
琴の
後琴
へ出入て
を與
く

Kitasato Memorial Medical Library



もゝか

今つゆ霜ぞおきまさる
なれ衣うつ音もまた
鴈の巣わかの浦こゑ
女郎花うき事功ありなれや
焼野の雉子夜の鶴
とゝろや そらごめなるうんの
えそ法通寺のいつく 法華よ
をしーけるら 着ふをやうけ
て 後朝をといふ女こゝろ成を
しくるさは白こ水干
えそ序を載てたゞ力と
あゝ男哉 いつと添ふ
のをせー 親もは親なり 者
そ人のは系をはゞむるのみ
そ今はく下等の役よ妓を



津で所を

つぼくり

遊女

遊女そうかとめとい方
集ふるといつて 遊女
乃事といふ和漢共よひ
さーをせうわらてせう
沿てそ海岡ーか手前ハ
小舟とつてば浦くる
かひてうひく姉をいそ
あゝ流をお
ほまはは妹
遊女そそそ

多くーて
も東のお
坂乃町 今
そ

Kitasato Memorial Medical Library

さわらび

紅葉

みねのあらし





Kitasato Memorial Medical Library

泊舟

ざぜん

朝顔

一重二若のを植ふる
より聲よき方へ一ぱい格の祝儀
つかまつり今まで引つゞけ
なり候へ共一通りにて指者こそ
ゐたるそんしやうしてしまはれ
神酒よばれ申さふ事もござらず
して神酒ばかりくらはされなろ嫁
入の夜ふけいたりて聲よき方よ
り小袖一重ずつとえらうと
を合せ糸うてそろへ逢ふ
ゐをそろへ逢ふ神
とうの嫁よき
門松こもむしろを
おれ長出ず右を逢
の上ろ樂をいをそろて
ずひろ祝儀をいひ

老松

むすび

れん

そのより聲よき方
の役人樂をそろへ
貝桶そろへ来ば
樂より次ろ
えなりそろて門
内のたちて文
を焼ろ引合ろ
後れとゆふ妻戸の
おたゞ印をそろ
て左右より男女二人
でそろて御祝儀
を樂通りたれ方の
聲線右れ方へうつし
まりてたゞく線摘合せの様
とゆふ妻戸の後ろ
嬬婿をそろへ居ろ樂ろ

Kitasato Memorial Medical Library







ぶくわくん

ねずみ

なんてん



霊芝



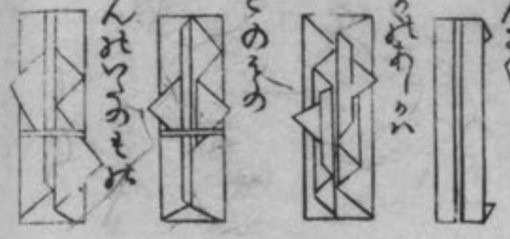
鼠ぞくく

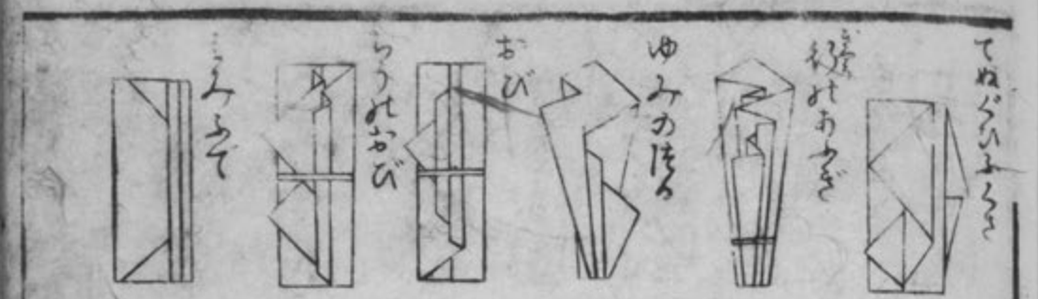


の白小袖をそろく白絞の袷をかづき庭へ出てハヽ袷を擦をするなり。まゝ嫁も通をとかゞる事ハ嬉しの為ゆゑあり女中かゞる事へ嫁礼座敷へ次第ハ結上髪出もうひて嫁をいざなひ仕掛よろくぐ〳〵休息させ座敷なをし茶をすゝめ夫より座へ座をべつ〳〵主位より座をべつ〳〵と積もり方なうて茶をすゝめ出し結上髪をあいさつして歩

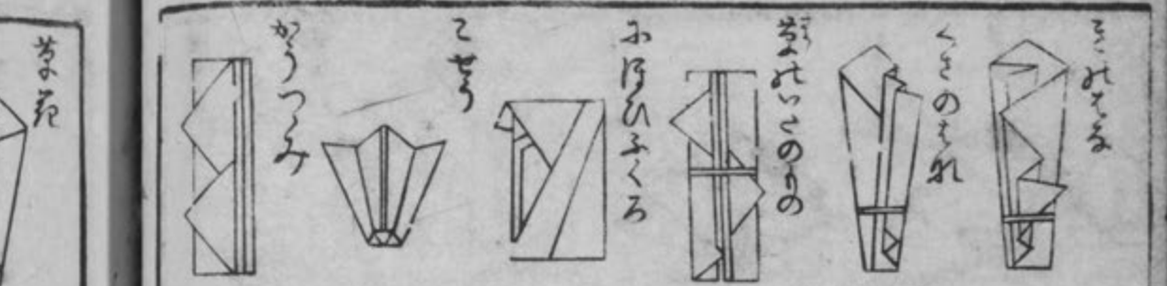
Kitasato Memorial Medical Library

小いろ〳〵流行の名






年ねん
ねん
ねん

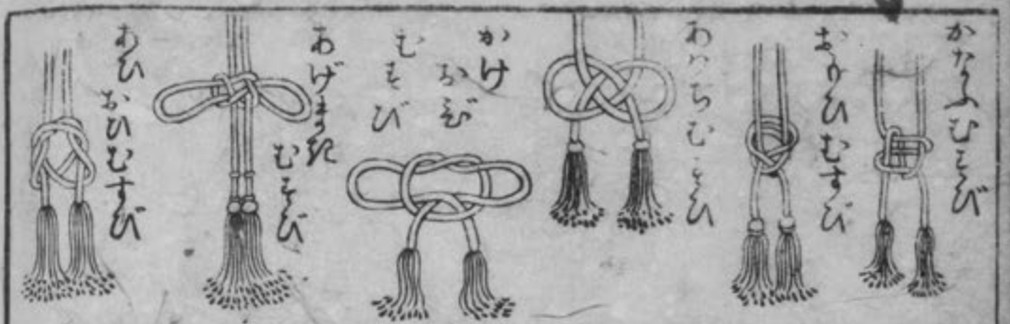


ゆういづきも初るまくしんぶんを
年玉を重て敵人さゞらくわつさうを出しだれ方へ
ゆく敵人ふたりさうづを終まへおりまかまこ
のうらへみてこんぎ
かへ初てこゝ嫁ござる
嫁こんぎをむしる
てそこへ九ばこ敵人
さうづきを年玉をかざり
右こをもつるこれ猫を
世俗よ嫁より飲初とて
飛れなりとまるべし。扨まつ
年を立てくろ〳〵
ようをも吸扣出て。
つぼのなか〳〵。





一ツ小角よのせ三方よそを
出をかう。これさるをそべし
逸亜ーあるべし。まい嫁
小祝をそろて年よ付こざ
出ー。吸扣出て。重い嫁
よて。ふ。ふ。そて出ー。
紀の煙ようくてくんくあ
おさこれ着と夫婦よそ
はろ湯ぞけを出ー。鯉乃
吸扣出て。重ね塗盃そ
湯も同をそろえ。
て。膳のあーらい
あるべー。扨十二組乃
菓子栗なご出て後
年猪を出をせみこ
おくさこそこのる風



おめでとうござい
ます。それ祝儀をみて。村上殿嫁をいざうひ。男もうとめっこんませーむす。男ようつるそのの祝何ちるぞーよ。紙さうづき紙出ー。ほ有ぬ。男姑嫁ようん人ゐ居れなう。扨もうとこんをそ。もうとこん飯をそむちなうようてうち分を出そ。ぬ人なーば雑煮を出そぐーし。



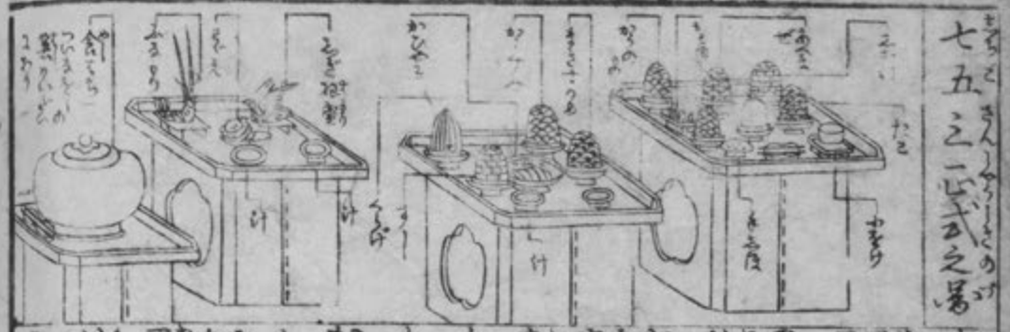
むすびふさ

ふうーふさ

ひねりぶさ

こまそーとの者二乃うけて。さうこん飯て嫁こそすぬ二こん飯はぬ。姑ようーよおそ。嫁一こんかつて。もうとめこうこを。姑こんのこをそむちなう。宮こそ。ふ吸おてぐーし。み者こはりつけて。嫁一こんのこそて。男こそす。男こ舅飯て。嫁こうこを。嫁二こんのこそて。もうとあこそすぬ。こ舅飯てをそむちなう。ふ男そおあーぶみそひねを出そー。

Kitasato Memorial Medical Library



かもうけ一つ之方ゟ
あるべし。其者を出
母なく八ま嫁をいざなひて。先母
の位牌へ之ま入ていとま乞
せるこれうるがごとく
なり。もる残る人ゟ
家にゟりて。位牌なき
家などハ仏壇へ
のあり。墓ざ祀れなり。
と。ゟのる
かゝる吉礼ゟ
くべし
聟入ハ二ゟ
吉日をゟ
膳部ゟ
おゟ入く。男の方へ
ゟ百八十れ餅を
ゟ







てをゟりまし
入る事。第弐ゟあるべし。
ハいくつゟ成とも入
し。後ハ男へ小袖
ゟうとゟへ小袖
まぐお迎ゟ
先ゟ祖を出し。
聟出く。ゟうとゟこ
聟ゟみ。むこ
出おあるべし。聟一
ゟうとゟこんのうて
出ゟ。ゟんなゟバ
しめこゟん飲く。聟ゟ
ゟうとゟかゟを出
云よてわこおゟを出
祖聟ゟん飲て。男へ

Kitasato Memorial Medical Library

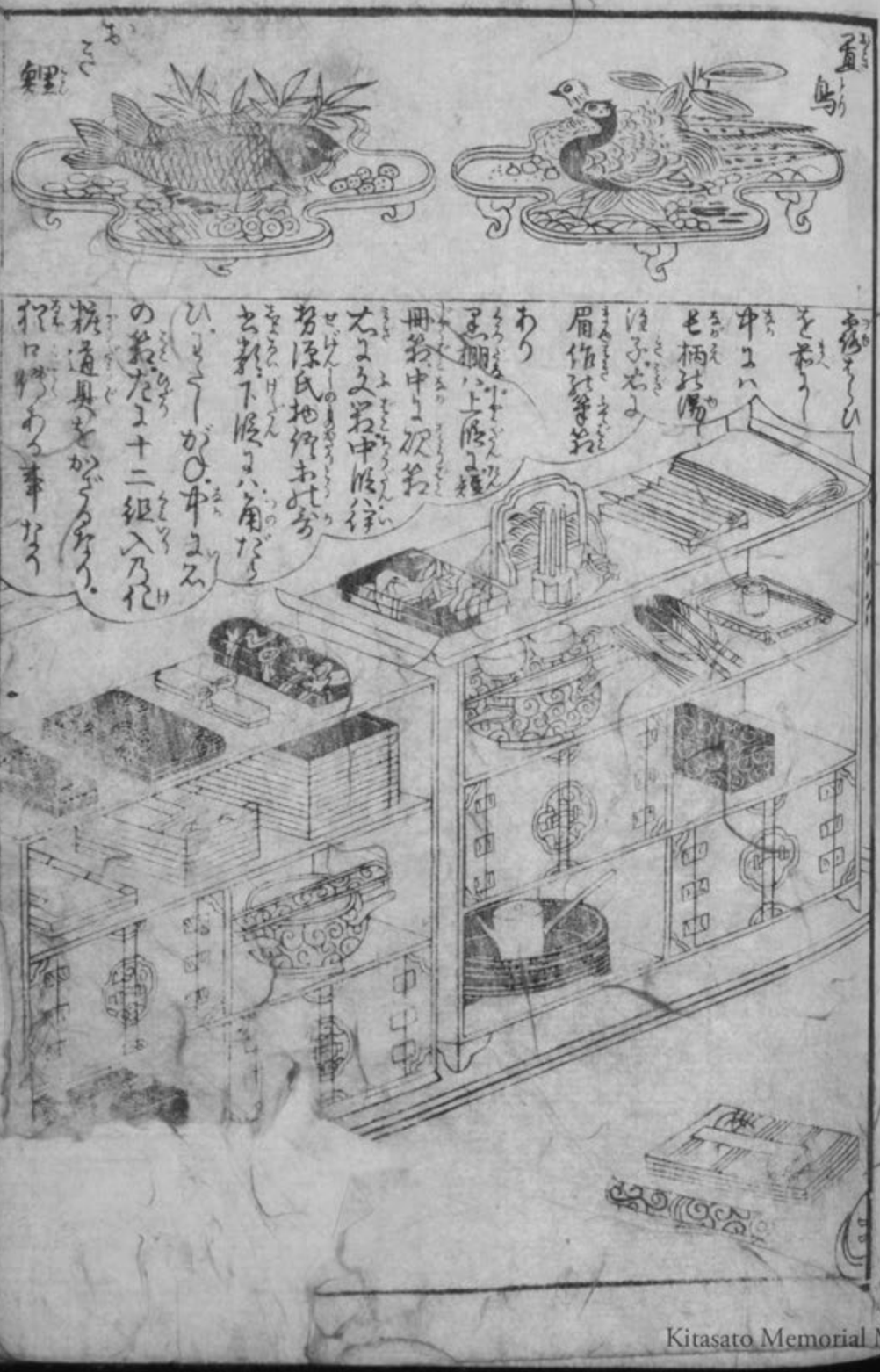
嶋蒸

おさへ蓋

むるなり。酌いたる酒一口しそ吸ものも、熱うしてうつくしけれ。ん〳〵わろし。式も舞入とはしるべし。

○御厨子 棚 棚の上段二双組 重合ハ料紙 太刀屋ハ水入のせ 方双屋ハ水入のあれ方 重べし 中段 重合せて盃なり。

耳角 かひれ大 二つ重なり。


重ね引
重ね引
重ね引

機織

昔代よりはじまるといへども、其始を詳にせず。神代巻に、天照大神は、新嘗より呉服穴織などいふ二人の機女をまもろう。此機女、技はなはだ妙にして、よく霊を在て、さまざまの絹を織ぞめくへり。絹を呉紅もいろ〳〵そめよりは、おもおもの布よろづの絹織りをこと位あるの分よりあれ帛は今もはたといふ

縫針

縫針は昔代よりおこる。針女といふ昔代の衣服ぬひたるものよりて、故に像は大路よ。針女は社と、今尚いつきまつるよ。又縫級は古級大原を初てぬひそめたるはじめなり。ふるいふ。細糸は百添画の矢効とよみたるまゝ、てそ事よ巧なりしようむろまわりとぞ

織姫よまそうて
又あるかめひの
糸もみくよ
そとおるらも

おほよそ人のくちそのものをうる事多くの年よりのかくつぎなん方うたてきそうけるゆへなどよといいはやすそおかく事とかまるそ人れおもとそうさざまさびなる絵までどそれおそやくおあつかい男ぢ事うそ男八雅俗芸よそなどくよ通用そうとをあるく女八筆ぐろよりそくしかず上代の風ぢ雅そう後学ぶんぞおくゆう



和歌

和歌よろん事八我国風の道うそ天地と芸ふまてはとくいそうのハ月給よいひ出せるつぎなまどそ文字ぢ教えうくいまの島そうの

やくさこそのハ姫とよみのひよう三十一字を格とくそこそうなれハ師匠なくてハ徐ぼうらざるうなまさバうさ砂をそうびく添削をそうべく



Kitasato Memorial Medical Library

琴

和琴おおくは秋代より六張弦をつくる弦をうちならせをそじめとそといふ今そなへおくぶ十三弦は築味琴ととく唐土よりつたはりて其音色ふる本の組といふものは梧桐校て作り出せる和ごと表組七つ裏組六つを合せて十三組といふ外ごと彩組十二あり名を名をたて出せり唱歌は琴曲おなじ書あらて詳なり



表七組

菜蔬組一名雛鶴
梅枝組一名鈴虫曲
天下太平　鶴雪
雪景　雲井上

裏六組

海衣　扣垂　須广
四季曲　扇曲　雲井曲

新組十一曲

梅嬪　明石　四季折々
末つむ花　四季の末
雪月花　花川
彩雲雪　春の蓬莱曲

右の外ごと秘曲あるとぞ



Kitasato Memorial Medical Library

この奥ぬしどのもうさるるなるべし。多くは、仮物語の、歌の言葉ども上の句を置きて、下の句つけたるなどの類なるべし。歌合は、左右に歌人一首ずつを出だしつがへて、その歌の優劣を判ずるなり。奥義の源氏物語を覚る料なるべしとぞ。



奥合は由来八神代の時蛤貝姫と幸よろづ姫と其後系図を東國へ移す。幸あり〳〵時、扉ひらく。奥あをせんとぞ。奥合八男女ふたりを表とす。是奥を男うかがふ。出奥は女を表とするをいふ。姫入の時ともいふ。元和九年の頃

今ぞ知る二つの浦は蛤の
奥合せてぞ成りぬる



Kitasato Memorial Medical Library

卷之四陸

卷ハ唐土玄帝楊貴妃の
事を一ねんの内の
四季の
風景
ニ
なぞらへ
一年
ニ
十二月
を
一
巻ニ
こしらへ
給ひ
しを
ら
く屋
ニ
有
ける
ゆへ
ニ
名
を
ハ
屋
ニ
有
と
書
ける
ニ
や
ハ
ん
の
曹植
作
ると
いへ
ども
日
本
ニ
て
ハ
吉備大
臣
入
唐
して
お
ぼえ
ゆ
ふ
といひ
伝へ
ける
其
むかし
女
と
巻
をそ
へて
あそび
ける
ゆへ
源氏
物語
ニ
も
こゝ
ろ
まき
ハ
絵
巻
物
ニ
巻
也
と
ぞ
なん
ニ
ても
女
し
か
く
〳〵



雛遊の事

雛遊の事
ハ
已
ニ
おそ
ひの人形
ニ
至
ると
いへ
ども
古
ハ
紙
ニ
て
ひゝな
ニ
ハ
ゆ
ひ
ゆ
ハ
ず
ニ
て





七夕祭の事

七月七日は七夕祭とて五色の糸を
もつて織女星に
手向ることは唐土より起りて我朝にても
天平勝宝の比
より始まれり古歌にも
をも詠法多くあるものなり
一年に一夜ぞ逢て大
空の契をたのみ
て針の目をとほすごとくに
多くの星の中より人
間の願ひを聞
のうれしさ
乞巧奠とて今も故
実をたつとむ人いと多
きを見ば七夕の女
つめ事ならんとて雅遊
つづきて多く出せり



おもひぐさといふは
一ういろ〳〵ありて
物葉に似
あるうなり
とある歌合せ
よき歌なり尾ふら下かぎ〳〵その
をもふまをとぐ
おもひぐさとよむべし

Kitasato Memorial Medical Library





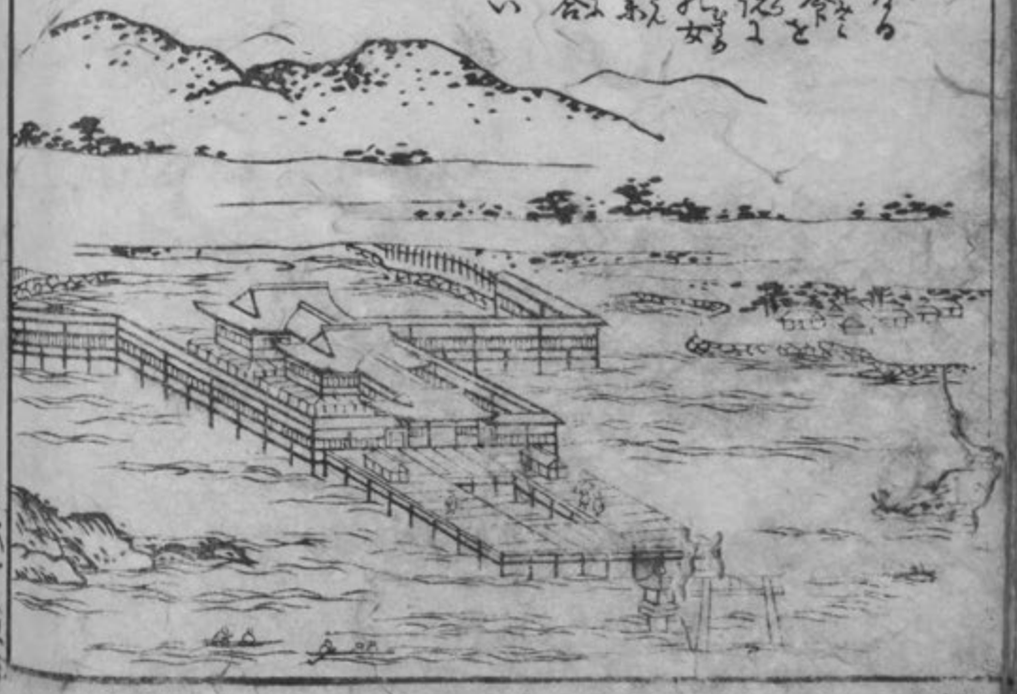




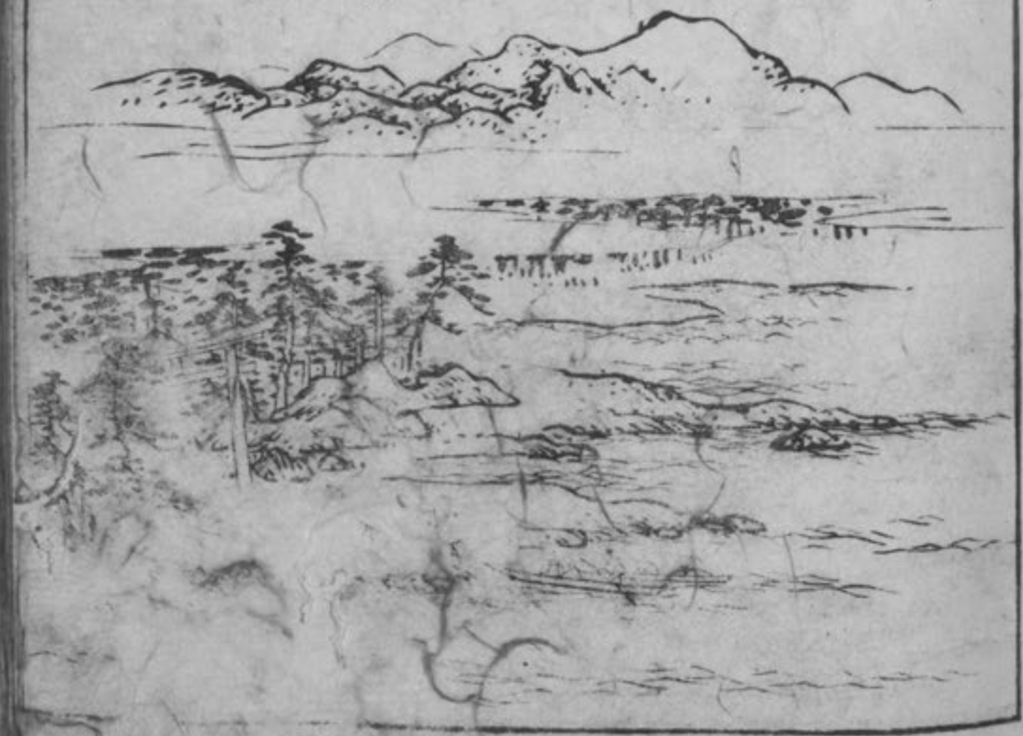
Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

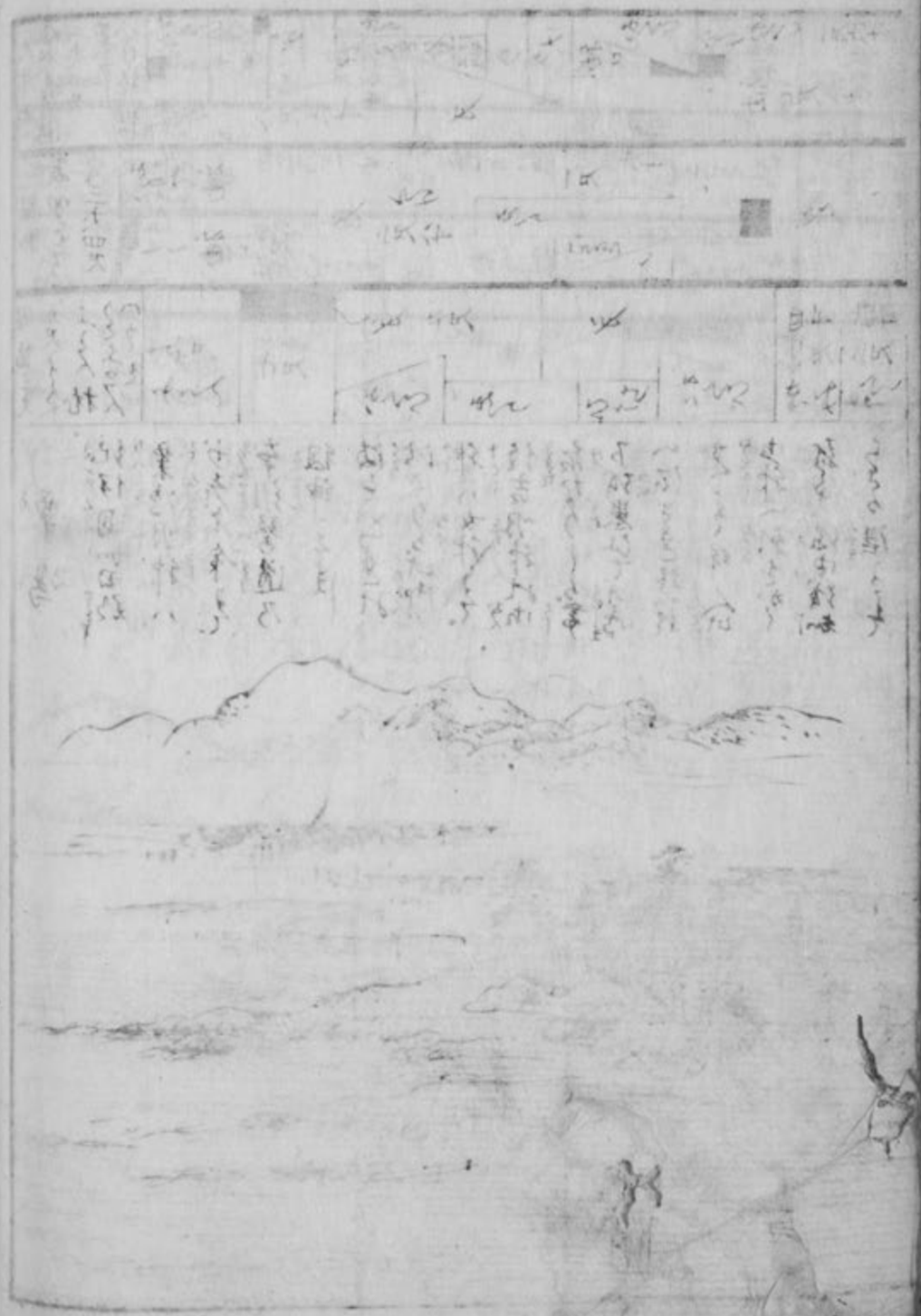
雁鴻

安藝國佐伯郡廿日市村の住人なる
神社の市杵島姫命を
ふりまつるなん傳ふる
安藝風土記に筆とれる女
ムカシ
ものしれる師ありと聞て
訪ひて神社と同名
の事あるべき例の仏事など
つるべき地の風景
おもひ
ほとゝぎす
紀伊國如田郡
栗鳴明神ハ
お元名命也
幸ひ繁道乃
細神ます
ほとゝぎすなく
神の女神ます
古明神社
石なるべし
夢
ほとゝぎす
流
ほとゝぎす
神


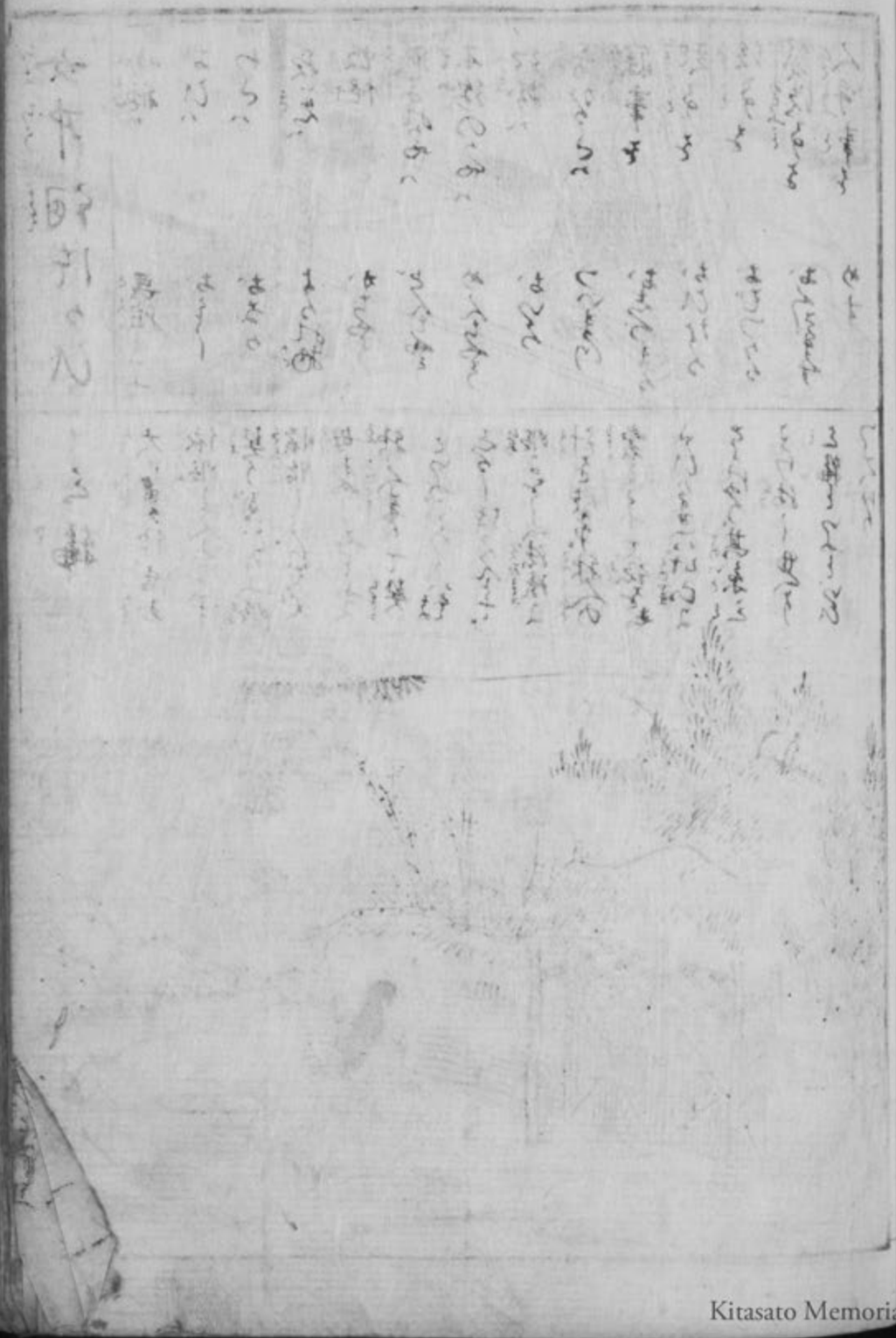
栗鳴



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



女中詞ばのひ

小袖へ　景清どの
おひい　おるこ〜
わるへ　おまゝ
夜そへ　よるよれあ
板橋へ　かちやう
猪なめりや　どんちやう
本領のうや　めんちやう
紅粉へ　おいろ
そのかうこへ　つかまり
寝事を　おこづまる
起るを　おひなる
泣るを　おひつる
袈裟ぬるを　おろまそ
人呼事を　めす

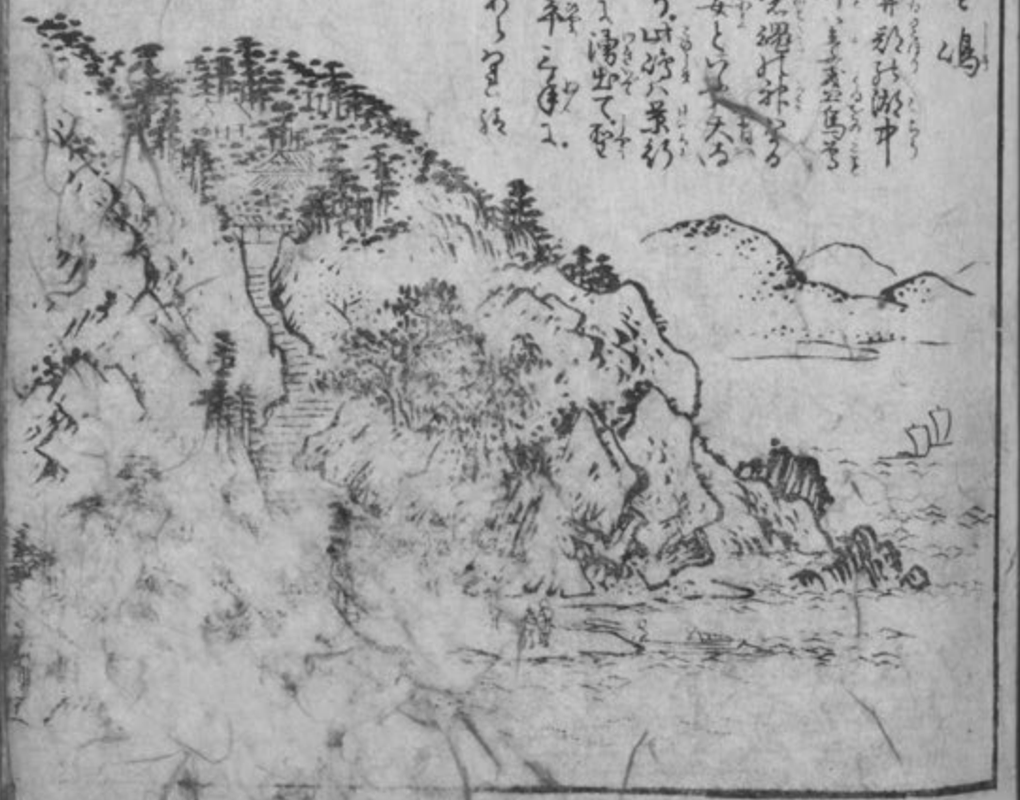
三輪

大己貴神活玉
依姫と人まつ
契う夏い
嫁胎ーけれ父
母あー
神人まり
とつぶ
まるー
汁をは
裳ーて
うはう基糸三
ま輪とつと



竹生嶋

近江國淺井郡竹生嶋
まわり
乃神よ縞
を
れ得り
天皇十年
郡天皇
十四
そなり



Kitasato Memorial Medical Library



近代七才女詩歌



Kitasato Memori



Medical Library

大こん
小菜こ芋汁
芋茎汁
蕨
枕草子
白瓜
瓠
細
瓠
枕草子
瓠
鳥瓜
飯筍
絲瓜

かくらの
柳よ鶫
ふれあつ日
泊れ花
くろくろ
お梅のは
緑こし蝶
やきぶさ
おもち
おむし
うぐゐ
すゞめ
かくれ
いり
月夜

秋夜閨琴

蛸
そるめ
小鯛
海老
鯛
鯒
鱚
舎季子
海石
かんるべ
外
ちろり
ふんぬ
るへくま

かくらの
小鯛
海老
鯛
鯒
鱚
舎季子
海石
かんるべ
外
ちろり
ふんぬ
るへくま

秋作おくひ杉の方





Kitasato Memorial Medical Library



○あらひ粉はようゐぶつけをおとすのこなり。ぶ。秘伝の薬粉調合してろうを白くしやをを生ずるやう白粉をもらせ。行とるくそれのよろのうとまそしむあらひやうかくのの

祇園ちや尾

梅もも

ろうろう

雲風よ

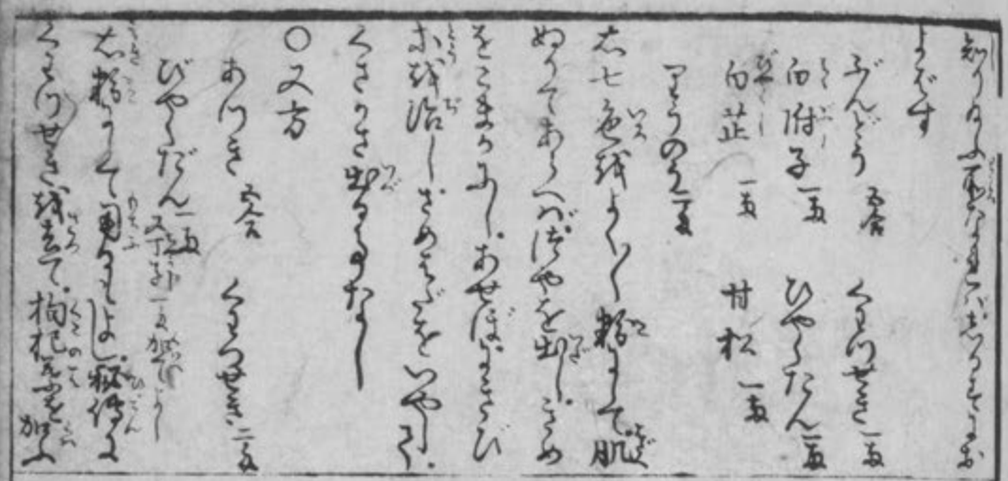
おげやれ

ろうよ

匂ひ

軒の梅ふ





初うりのまでおろそまるようぶす

ぶんどう 一名 くろうせき 一名

白附子 一名 ひやくたん 一名

白芷 一名 甘松 一名

右七色細末して粉して脱めてあらいぶやを出しこれをこまかにふるひ。あせばゝそこをふく。さゝこと出るなり

○み方

あらいき 二名 くろうせき 二名

びやくだん 一名 子より一名加ふ

右粉うして用るよし。粧仕ふ

くろうせき細末して。掬れんをかく

井上通

変物丸恋のくし

通よ達しむ婦

あり紙

面影

恩情何深九

まぬる恨

離想夢里

別恋人帰

京情山海

月前相望

渡浪新

Kitasato Memori Medical Library

色紙短冊秋の出

短冊ふ秋れ出撰六ふの駅名
ふかきき時ハ三ツ打乃上れ
一分の折目二一まかる折
書出しハ左
行上りて出
行下れ句ハ



袖もちて拂ひれぬをそ
ろ衣ふの風やとろゝん

よ七一まさけて出ろろ駅れ

心子

天法園午菓秋
小方と所乃矢
教氏の女うて
形と付を
とかうて恵縁と
のくう住通
書を秋年杵
二十九暮そ死を

出の衣

おそのの

人よハらば

花をう衣

ねまの

ある秋うハよりの句を同じ通
にもべし作者乃名を時ハ書れ

梅雪

梅うにけまよてハ句ぬ乃
書をを花のふを添れ為世

句乃下に
もべ一句
のぬし

春ふのとて年出 十三
みしみそふ書そ 十二
ふくハろふん 七

墨程秋能出ろくろう大事ふ
出出ハう墨ふて始二句を出三句同
にて墨を程ふ二句出ふ句同ふく
行く墨ふ程べ上の句ぬ始を事ま
ふて出時ふ下乃句の始を仮名に出上
乃句ぬ始仮名れ下ぬ句始事ま
ふお方事まハ一まさけてもふ
秋秋の駅をそろへて出なう

かゞの

ふ代

賀茂祭の人
俄踏ふ祭句を
うろろふしく
和年中ハ十余
れろて死を書
書園とう種
秋ふ妙

蝶ゝや

女ぬ乃

のあとや

死

Kitasato Memor Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library



桃柳の

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

女鑑方條目



一ふとして勅事あるれ
一女として男と物語するなれ
一下人へとして文言つかはすあるを
一主人として下人をいやしむる
事なれ
一下人も人なれば主人として

端午祝ひ文言



一ふとして勅事あるれ
一女として男と物語するなれ
一下人へとして文言つかはすあるを
一主人として下人をいやしむる
事なれ
一下人も人なれば主人として

端午祝ひ文言

Kitasato Memorial Medical Library



一人事つそのいろや〳〵酌べ〳〵
一人のなさいをそしめバ化ける我
ふをおそれむこそろべ〳〵
一沖けバ男仇こもをみべ〳〵
一なをそうかいそやそうふがる
それるハなやくことわるど
一あすは事かけうんかべ
しこべて春のうハみそう

婚礼祝ひ

一筆よ
当座宛

一年
四月桶
浄瑠璃



一夜の事ハまよう秋のうハ気
みそれものハ秋うんハ掛てのほど
一あけ重ねたりみべ〳〵すそまき
きれてみえそそもおつくしく
人ようみべ〳〵すかう論人を特よ
べ〳〵ず〳〵そと見てほゝみ〳〵
一かりうるおハそや〳〵西をべ〳〵
当用のおハ仕初もかるべ〳〵ず

浄瑠璃

一筆

Kitasato Memorial Medical Library



神仏おろそかに思ふまじきことなり
やうふことをうけてつぎなつくべ
うべきを人奴とて福をねく
さらんともろ〳〵
神仏にたつとみをとげてちら
つきがきけ〳〵をうりのま
あくるまでねもろべ〳〵



まれる秋の月かどをうら〳〵の
おもふよりさ友をさそひて
出べし〳〵そこそこ和ふ秋ふ
もあるを先ぶらう〳〵
如此笑顔拝をとうろあろふ八
をそ友あろべし・たゞもる跡よう
んあろうてうたくなきやう
なろう〳〵事をんがく〳〵

Kitasato Memorial Medical Library

女中用字ぐし

○衣類深色の部

衣裳　衣紙　糸　縮緬　紐　扇　中啓　指帯　縫帽子　襟　羽二重　苞　蕉布　縹色　帽子　紬　純色　匂袋　帽子　細布　袋　巴紋の類色　紐子　頭巾　縮緬　縮　掛像　乱れ　縞子　紋　布　帯子　光綾子　縞　縮緬　襟衣　表裏　社　織物　帯　苧　絽　紬　綿入　綿帽子　被　鞠遣　帽子　緋紅　絽　黒



糸　麻子用結　褐色　柑子色　鞘羽色　木帯　上下　皮　紙子　布織　西洋布　裏　縞　多織　芝袋　縹縛　鶯卵色　腹ごろ筋　綾屋縞　紬　衣抱　袖　褄　袴　深抱　深色

Kitasato Memorial Medical Library

帽子　肩巾　紡布　紬
羽織　袴色　麻布　紫
綾衣　羽色　麻布　紫
麻紗　麻裃　松　縁　黒
袈裟　麻紗　衲縫　袴
着衣　表衣　流織
腰巻色　渋引　濃紫　上
衣　打敷　熨斗目　幟
暖帯　細　晒布　紅　黒
息　朽葉色　揚色　幕
幡幕　七条　老絹　糸縫
繍　緋綸　子　綾　絹布
屏風　袱紗　風呂敷
袋　覆巾　覆布　類　紙
衣　納衣　異縫　小袖
帽子　結　手巾　袷
紬　汗衫　裏漉　浅黄色　朱



青　綾　綾　麻布　紗綾
下着布　晒布　結　黒
綾屏　浴縮　浴衣　令服
金紗　重糸　中形　絹
生絹　黄色　浴衣
袴　地　紬　松葉
腎紅綿　白帷子　門徒
結　紗　繻　絞

一番　手長　足長



縞 白紬 綾絹 褌
襦袢 絽 縅 卜掌
襦袢 衣文 襟 衫
衣 縮緬 紬紺色 紙
紐 天鵞絨 裏 絡
帯 本繻子 紋
袴 毛繻 同 織 襷糸
千歳 編 生絹



調度用具之部

紡車 五百機 衣桁 盥
茶箱 居卓 板 羽子板
茶七厘 飯櫃 摺 機杼
張物 庖丁 針
針刺 履 楊枝 鉢
箸 箸筒

Kitasato Memorial Medical Library



土壁　井戸　陶器
桃　紙　井戸
釵鏡　年玉　水帳
宝箱　帳面　陶器
柾　硯蓋　鏡
茶柄杓　硯箱　硯
茶筅　硯屏　筆
茶碗　筆架　筆洗
茶巾　筆洗　筆筒
挽灯　筆筒　筆掛
扶持　筆掛　筆置
乾肉　筆置　筆架

硯屏　陶器
筆架　井戸
筆洗　茶碗
筆筒　茶巾
筆掛　挽灯
筆置　扶持
硯箱　乾肉
硯蓋　鏡
硯　硯屏
年玉　筆
帳面　筆洗
硯　筆筒
硯箱　筆掛
硯蓋　筆置

硯屏　陶器
筆架　井戸
筆洗　茶碗
筆筒　茶巾
筆掛　挽灯
筆置　扶持
硯箱　乾肉
硯蓋　鏡
硯　硯屏
年玉　筆
帳面　筆洗
硯　筆筒
硯箱　筆掛
硯蓋　筆置

硯屏　陶器
筆架　井戸
筆洗　茶碗
筆筒　茶巾
筆掛　挽灯
筆置　扶持
硯箱　乾肉
硯蓋　鏡
硯　硯屏
年玉　筆
帳面　筆洗
硯　筆筒
硯箱　筆掛
硯蓋　筆置

Kitasato Memorial Medical Library



生姜　蚊々　釜　掛物
記筒　懸硯　竹輿　皮袋
磨棒　論　笠　傘
湯之　掛　奏　撰
斧　笑　重物　炭団
傘紙　筆司　經机　摺紙

おかしくも
作のごとく
又書不申
候
うれしき
事

經机　鞠　連子　掛物
文台　硯箱　埦の　硯蓋
硯　机　唾壺　硯水
琴　蒔絵　硯蓋
根来塗　長剣　蠟燭
團扇　茶物　鬢水
眉刷　化粧　硯屏
文臺　文臺　筆架

湯桶　昭陽舎　硯箱　香箱
阜　燭臺　行燈　
蚊遣　蹴鞠　
蓑笠　
厠

栗　薬盞　
胡桃　紙子　行灯　三線
徽　紙子　盃　双紙
墨壺　行燈　
草履　几帳　油単
竹筒　屏風　
柘植　
蓑笠　
厠

Kitasato Memorial Medical Library





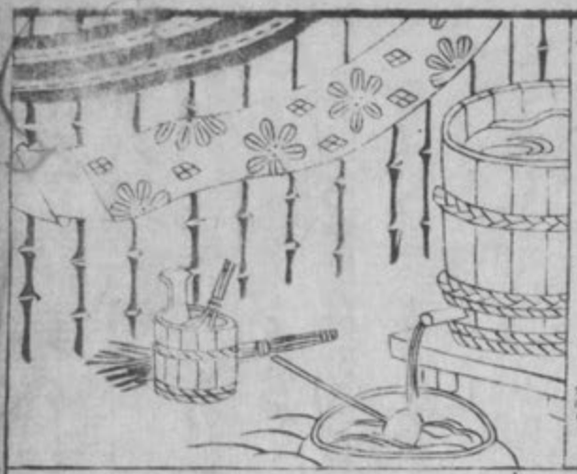






(Kitasato Memorial Medical Library)

茶漉拾ひ事



茶むしろに茶漉

地をにてそこれおくくく漉茶
根一かぶら残りなるき汲そも
み出し漉るなり拾ひとと
きわり一ふくるうちに漉
みだしてそれおくれみ紫根を
入一かぶらをぼう漉出へ今拾
なり。みをを初めとくわりて
漉がくれどうするうち紫根
ふりうらうそ一ふく漉るなり
そをもめうちなるを
ふーこもかまくなるなり
仙せむしろきは
あおうそて下漉をして番拾ひ



賢女 貴婦人 遣言 訓 のたまおそる

和子
そのおろそ
れのをはて
のハやをく金ふ月を
かぐらほーいまなる
ハおやまちめそぢめ
なり



人をでいう
うそんそれ茶の
おようそあそ
ありけあるの

いづれ劣らぬ人々をよく
おくをなをそろへあく纔の淨瓶
の上にひらをおきうへあけ〳〵と
うちくべあく紙かけつゝ中よ
まぐひをくべてとをかうず

みづの薬湯

こゝぬるゝかうやを一把ほど
ぜんにはなをそへあくをとく
ぜんに石灰を薬一銭ほど入
湯の花をうちくだきつゝまぜ
ことを出しぬかく竹のまと
薬のせきよく銭ぜんにて上を
湯とかなう

ふらん湯

ぜんくすり八拾匁ふうをし
布にて袋に入湯を





民部卿の局

かみにたうんしまいりてのちまでふうりなし

小督の局

あゝこゝろうきわかれをなみだにしづむ人のつまなりけるぞよ



Kitasato Memorial Medical Library

住吉大明神

夜や
ゆふべを
寒や
うそ寒や
そらん
かすの

玉津嶋大明神

立そふるそでを
いせの
玉津嶋大明神
名をおりふしの
和歌の浦

人丸大明神

うれをそへ
ゆく
鈴ふり
おかし
おかしき
人丸大明神

天智天皇

秋の田の

庵の

苫を

Kitasato Memorial Medical Library

傳正通筆

浮みよう糸こうなで白雪と
たはこそぬける春乃柳かな

在原業平朝臣

おもうこと月待そでに先そ心
つくるまつ人の花よりもの

文屋康秀

吹うこの
むべ山風をあらしとやいふ

素盞嗚尊

我庵の
ようちもと人いふなり

小野小町

色みえて移ろふものハ世中の
人乃心の花にそありける

大伴黒主

かくれ
身いたやすとて
ふる

五節供の由来







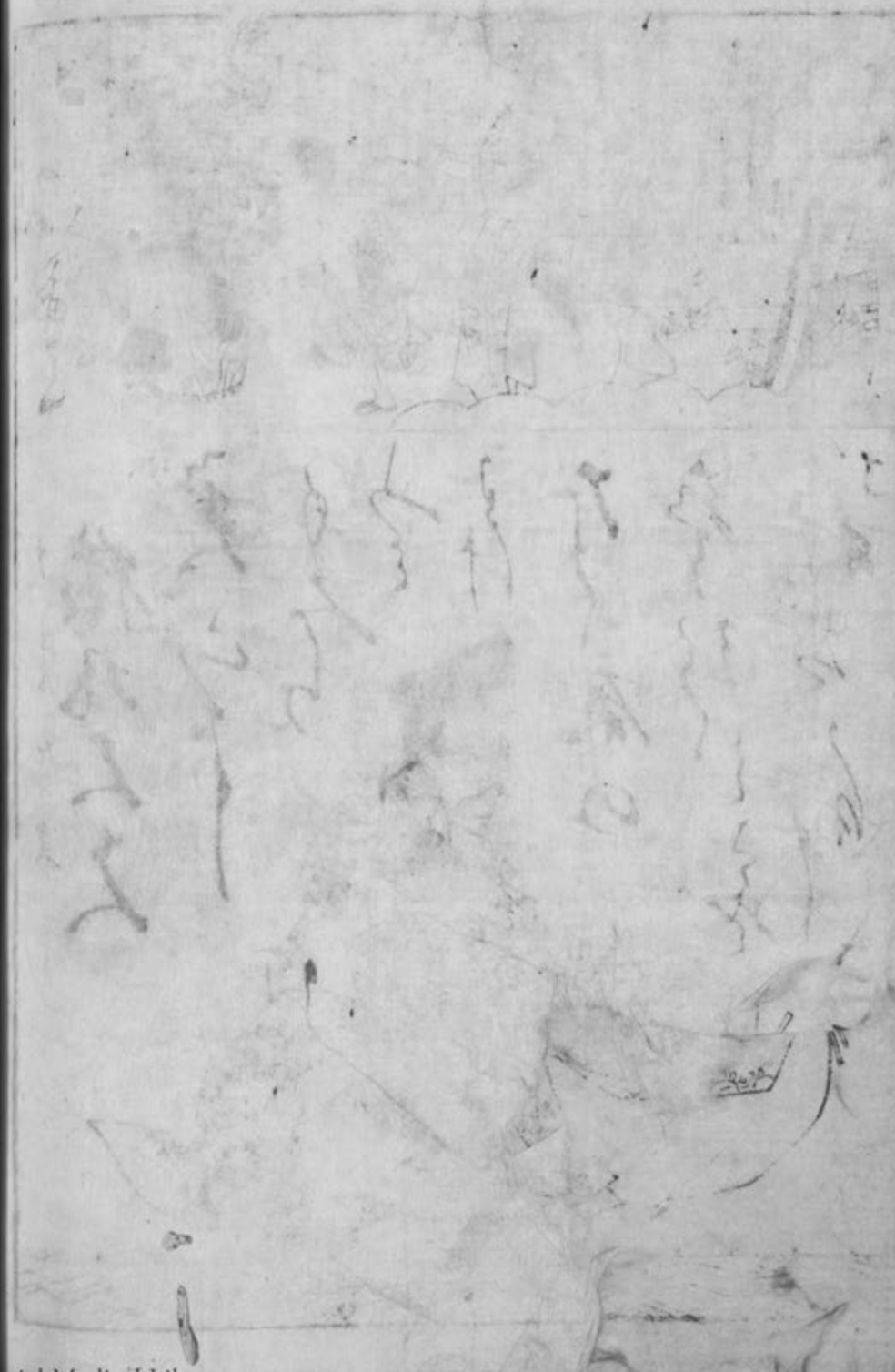
Kitasato Memorial Medical Library



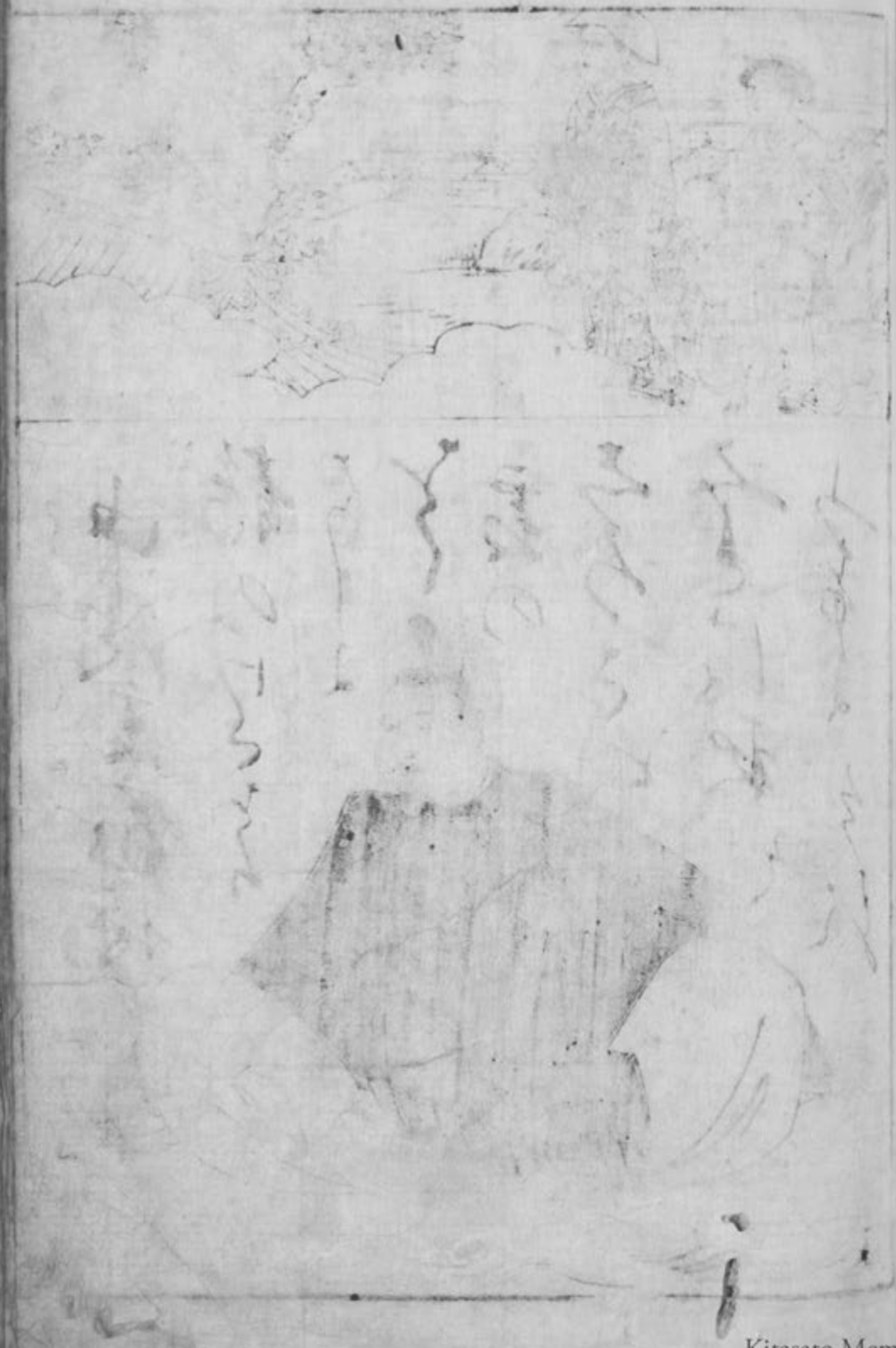




Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

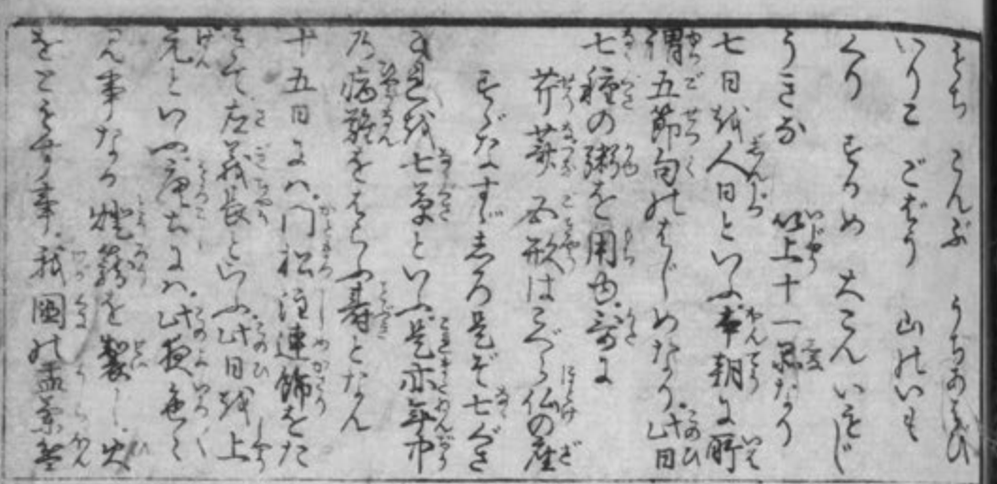


Kitasato Memorial Medical Library



中納言家持





うんぶ　うちあふひ
いろこ　ごぜう　山れいも
ろ　をろめ　大こんいをび
うこる　以上十一品なり
七日　此人日とて本朝之俳
諧五節句なぐめなり山田
七種の粥を用ゆ　芹
芥菜　御形はこべら仏の座
すゞな　すゞしろ是を七ぐさ
又七草とよむ　是亦年中
の病疫をそらつ事となん
十五日　よね門松注連飾をた
てそして左義長とて山田神上
元とて二月十四夜もく
ん事なり　此翁を祭りし史
をとゝめん事　我國は孟春



安倍仲麿



我もちやのそばもくはんと
森撰法師
小野小町
花のさかりはうつろひぬ
我身よにふるながめせしまに

二月八日は釈尊誕生の日也
三月八日は潅仏会
きのふは釈尊誕生の御代は摩
耶夫人の御代にて
三月とする也
用の三月は今
の十一月なるべきを
十五日は涅槃会也
二月十五日なり
四月の吉供養は二日を限る
上巳は三日
遊ぶ事
残暑雑略
あらましかくのごとくなりけるを
Kitasato Memorial Medical Library





上れ巳の日となをう宮ん
江月朔日を表元という此日よ
り給ふるなり
五月五日は菖蒲の節供にて端午と云
此日より惟み祓するなり此
菖蒲は毒虫をて人の身を害
をらむへ蛇むかでたちは
て足を食し祸うること手負
表を差通蒲を切る菖蒲
も邪気を避る呪術なり菖蒲
蒲を酒にひたし飲ば万病を
除くという説よ
宮もわらやもあやめふくなり
六月朔日より氷食をする事あり。
仁徳天皇の御時より始まる



和田義盛
八十余
人よ
あまの狩衣

其ほかをもみなくうち捨て水室といふ今の世事なりけり

いお掛捨なくて行事にて水室乃名ばかりを残しつゝ

ほ晦日より夜水口よりおて名越の神事を初め是より神明社迄ふようつくこ伏れ云の墓さ代さはらぬこととい収ひを述て神明を祭る事ぞうろとそ

七月七日星祭りて女の縫針の道よ巧うく事ぞ教へ是をも巧者といひ方よ供物ぞなをもをも巧者といふ上つ方ハ々ゝ代武日とゝ

中えを後の中えの墓ぞ仏







Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library







Kitasato Memorial Medical Library



藤原敏行朝臣





住吉

Kitasato Memorial Medical Library







Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library







檀林皇后

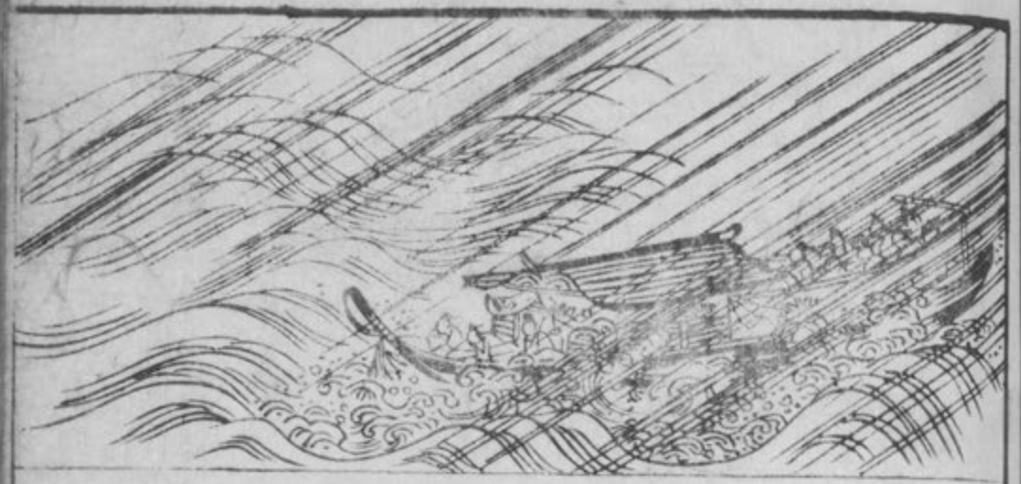
檀林皇后は源氏天皇の御后なり。はるかに我が子とも思ひ給ふ御甥なれば深く哀みたまひ、その遊猟をやめ給ふる様ひとへに御仏法をふかく信じ給ひ依あつて檀林寺を建立ありしはのちのことなり

[illegible]





Kitasato Memorial Medical Library



衣通姫

衣通姫は允恭天皇の御后也
世に類ひなき美人にてそれ
ゆゑ衣も透るやうに思ひ衣
通姫とやいひけん貞節正し
き婦人なりし時帝姫と共に
ひ和歌浦へ行幸ありけれは係る風
波あらく御舟をくつがへさんと
そ。くる大こおそれさわぎ歎き
けまこひ給ふ折ふし立出ぬる
岸かねの上にて
我大君の國とちうそや
と詠しかは風波しづまりき
つねうみ今もおほ湯明神と崇
めまつるはこれ給なり



源宗于朝臣

山さとは
冬そ
のさ
もる
人
ゆき
とめ
おもふ
ま



九条関白殿

わたのはら
こきいてゝ
人をあはれ
と
あまの
つりふね
今
ここに
よ

Kitasato Memorial Medical Library



小野小町

小野小町ハ小野良実ノ女也むかし色このみ人の心をまどはしけり又ハ衣通姫の流れをくめるにや和哥の六歌仙の一人にかぞへられ容顔美麗にして古の小町が再来ともいはれしとぞ







待宵佳延

権大寺殿いまだ中納言にて
いせ一位といふる女房に
ほひをる或夜こと事して通く
入かひけるに
待宵ふる
わかれてもちかりのうき
ふようの
待宵佳延と
らをぬるさ
なるをのこ
うのかと
そのかひ
とうのかけ



春遍列林
山のよそ
もみ
なだ
もみ



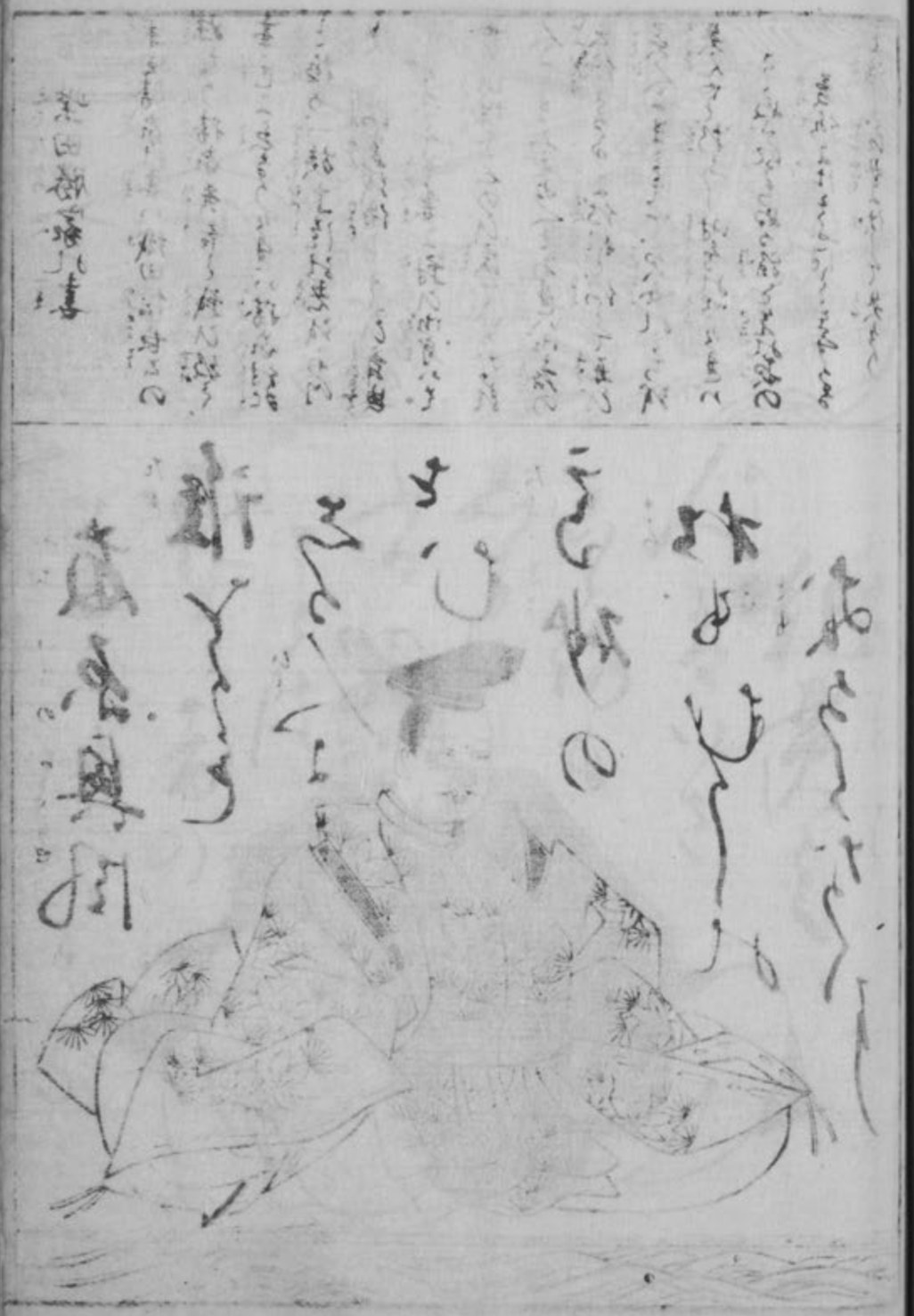
紀友則
ひさ
もの
をさ
こと
春な
花の

Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



柴田勝家妻

柴田勝家妻は織田信長の
妹なり秀吉と戦ひ敗く
事已に急なるうち城中
と極め一族ふたり妻の
方へ行別れを告ける
妻答ていはく我
やく此城をのがれ
人々のうへを
云伝よとて
妻人ともにうち
笑んやく打うち
さゝぬぶくちゐる
妻の
最後よりもそふにこそ
と涙と共に笑ふ



人紀ゆく
花さそふ
ちり
ぬる
ふる
ながめ
せし
まに
春も
むなし
つゆの
身の
ほど
ふる



有為無常
誰そ
とゞまる
をしむ
ひとつなる
ぬる
砂の
もりも
なくなる
うき

菜湯乃事







Kitasato Memorial Medical Library





Kitasato Memorial Medical Library

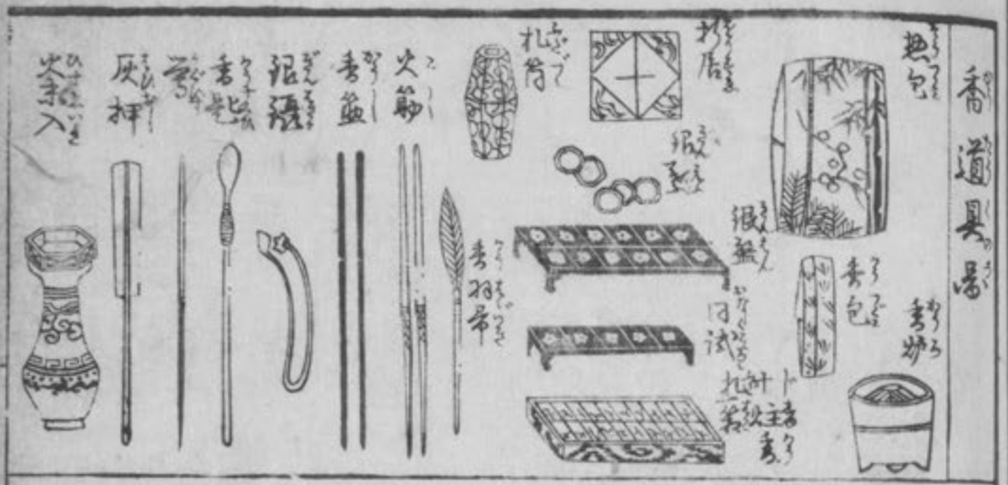


香道乃支



Kitasato Memorial Medical Library

香道具の場



名香の図



Kitasato Memorial Medical Library



結び燈籠の事

扨も結び燈籠と名付こと。結び合〳〵て。そこ〳〵へ七寶をちりばめ燈火を入筋のまさごをみすに二筋と八入ず。是御堂上より下さまで香會乃は用ゐかう。香ばしき伽羅ともいふべきものなりとぞ。



源氏物語之事



上之ひらうち絵そうて本へもんやをぶる



Kitasato Memorial Medical Library

小芝原あるよ番ち抱い湯のさいよ
付るといつ志るまでゞも香のおとも
つかせ大根よ極うくる事なろう
いつ〳〵も暮ろう外大根なござる
也〳〵表ゟ大根を湯ゟくゟ用ひさ
る外ろ今ハ事ゟとにわるゞ作事
るハ用ひざる芸なるゟ正月えと
ゟとゟか〳〵庸種をなるけ勿ゟれ
老ハ青下ろう〳〵生大根ゟ輪切
なろ抱をくひく口中にくゟれ
事の残を大根ゟく消なろ主
ゟ上つゟの数立ゟ番れ抱と
いふ事数事といふ事の抱ゟ私
をるといふ事なろ山都者ハ食
のゟ時ハろ〳〵事ゟ抱なゟる





火所へ
くどこ
なろ
こかし桶
をゟバ
ごとくなろ

火所ごとくゟ事



恵者ハ手薄ゟ法師
人ゟ
抱ゟ
ゟ



Kitasato Memorial Medical Library









Kitasato Memorial Medical Library



歯黒の事

歯黒の事いつの頃より始まりしや詳ならず俗説に天照大神の御事なりと云伝へたれども実否は知れがたし。されど上古の男女ともに歯を黒くそめたりしは、古事記日本紀等にも見えたり。中古に至りて女は専ら歯を黒くそめ男は白歯にてありしが、後には男も歯を黒くそめたり。今は男は歯を黒くそめず女のみ歯を黒くそめたり。





Kitasato Memorial Medical Library



女の眉そる事

女は眉おとすもの。人相の書
に女の眉一ふしこそとてうた。
嫁なくして男に通ずるおる
といへど。越ゝて女は眉そり相
かゝるものも。色おをかくさん
為ゝ眉をそりひてうつく
しく作り眉こそる事なり。
元文日本は風俗こゝを
ろ〳〵人のそゞろ事なり。
眉の相乃わ〳〵そゝろいと
そゝろ〳〵。そゝろと世は女た
ゝの。それおのわ〳〵をか
んがみばそゝろいとそや





Kitasato Memorial Medical Library



懐胎吉生乃事

夫婦和合してよせうくハ天
ほとくさし花せとそろれ孕まて
宮すまろふる通なれハ家内
もやそくと寿ろくさ乃理
なるふ乳者して若こ成ハこ
そくるのあるハ懐胎十月乃ろ
者ハ生色をあへなろそと云い
んとうち事を心こうけ強て地を
ろぬひあるひハおねろみふかそ
まれ者れハいろあんこの気
たるひをさう加へ気を結ろ
事かさろなく身を安居と
ねよかろも食物をえらびて
く衣者もおてろうるうろ
ろくようてそ所をあや油





大納言之北の方は

Kitasato Memorial Medical Library



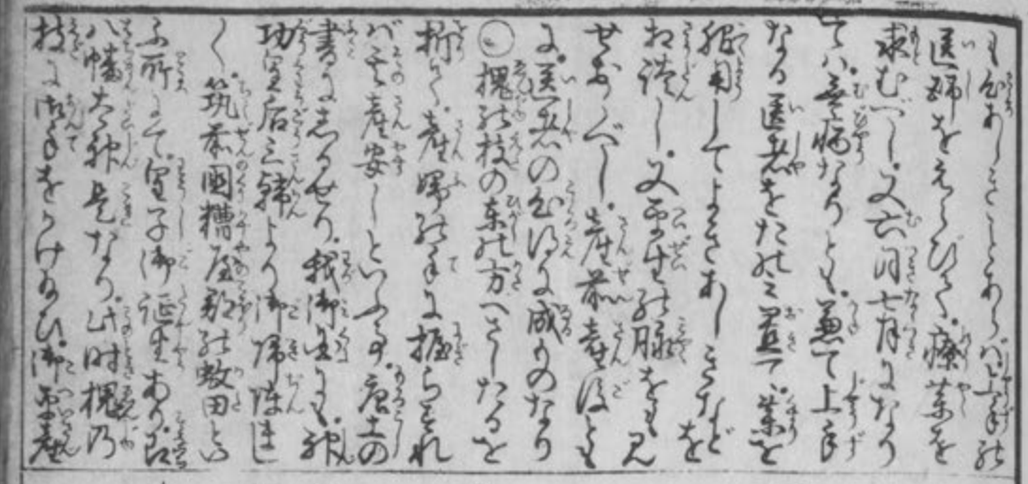




Kitasato Memorial Medical Library









Kitasato Memorial Medical Library



わうしとうや
○老若老後食お抔ふぬもの
　猿脇お間ときうの
そうげうさいうがん大えん
ふんもん山のいとごぢう ふ
せういちごおいきび そ
うど大むぎ そろまめ
　ほわーれそ
川さき地あけうんぶあうさ地
わうこれ そうれもうろさき屋
たこそびさまづ ぢちやう
さけれ実 ろう生 まづみ ある
かざみそぬかそとすり
ひとそー そぶれこんちおりも
かー そまわんず そびう
そうひも
　老後ようさうげ
こひうさ そうげ そびうを





Kitasato Memorial Medical Library



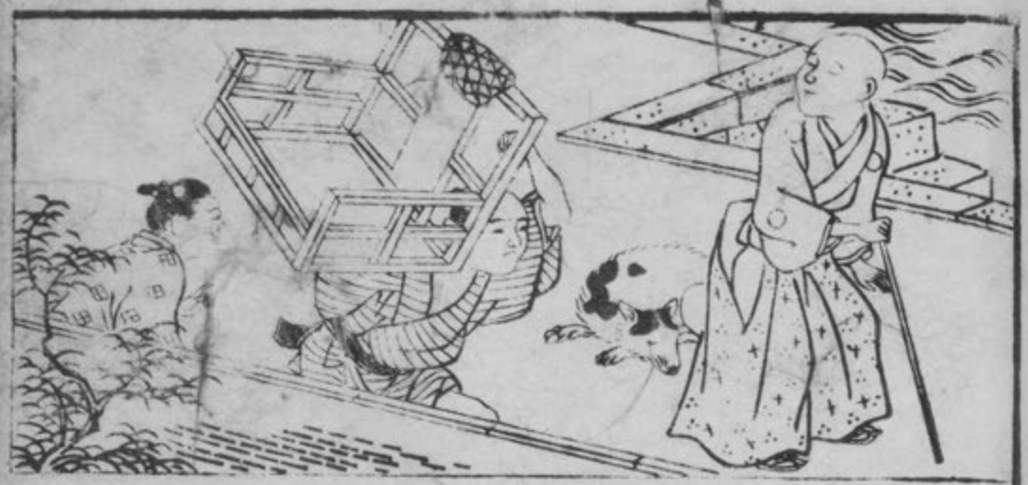
清少納言





Kitasato Memorial Medical Library









Kitasato Memorial Medical Library

三十六歌仙



雪のなくは
あすもこん



山ハゆきふる
まぎれつゝ
ひとりも
着れ
いばくくを

た丸河門弥姫

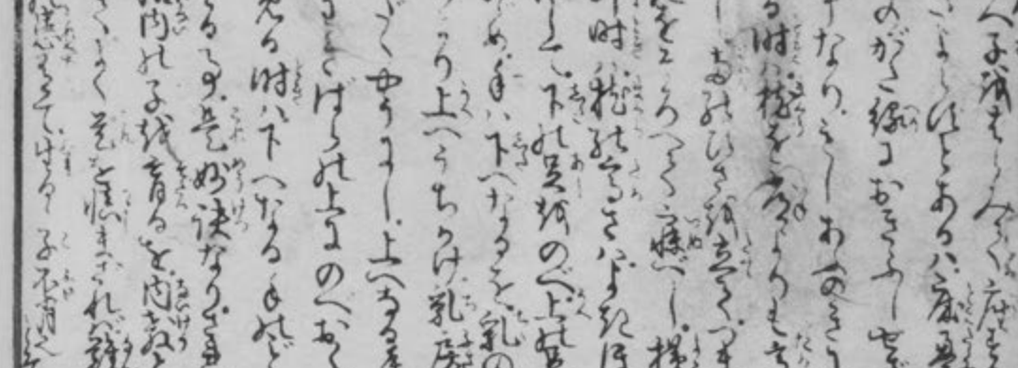


久方の
ひかりのどけき
春の日に
しづ心なく
花の散らむ



梅ハ香そ
袖にうつせる
ともしびの
あかき
影にぞ
人を
恋しき

た持丸人





Kitasato Memorial Medical Library

左中納言家持





左在原業平朝臣



左喜撰法師



左猿丸大夫





左　中納言重頼

みしら夜も
きり
する砂の
岩もれ松風
吹らそそく



かひのあるべき
今なりとても
捨ん
湊江
ちひろの
伊勢の海
左權中納言敦忠





左　源三位頼政

初中終
ほとゝぎす
名乗
今一こえ
聞ばや





左　斎宮女御

けむ
そへ
をそうの
いづ
かうふり
峯の松風
琴ぬまろ



左大納言経信

夕ま
いそ
ぬま
林や
ふく

Kitasato Memorial Medical Library



た　源宗于朝臣

常盤なる
松のみどりも
春来ては
一しほまさる
色ぞそへける



おくるまぬれ
風ぬるむころ
みそぎする
うにや
めも
杉来ぬと

た　藤原敦行朝臣



左　参原清正
　　天津風
ふき乱れ
浦
カ田鶴
なごの雲井
かへるなりけり



なるかみ
むらさめ
雲も
ろともに
雅をとう

た　藤原興風





桂中納言
のさくら
ちりぬ
かや
春
あるむ

Kitasato Memorial Medical Library

みよしの
山もかすみて
ゆきをれ
らし
あをによし
ならはふるさと
なりぬれど



かつこそみ
山もかすみて
こぬ人を
契も
よろづ乃
名残なれ





ちとせまで
かぎれる
松も
きょうの
君が
万代やへん



うかりける
人をはつせの
山おろし
はげしかれとは
いのらぬものを



契おきし
させもが露を
命にて
あはれことしの
秋もいぬめり



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

右　紀貫之

こくうちえ
まの
そこ
うぜは
はむうらで
こそ
雪ぞ
ゆうけ



右　伊勢
三脇ふし
いうこ後
ふ夏
くふ
ふる人を
あ〜〜
ゆりん



右　山邊赤人

和哥はうこ
ふ日みち
くま
ば



右　僧正遍昭

きうちの
ふき
そそ







Kitasato Memorial Medical Library

右　紀友則



久方の
光のどけき
春の日に
しづ心なく
花の散るらん

右　小野小町



花の色は
うつりにけりな
いたづらに
わが身よにふる
ながめせしまに

源融



陸奥の
しのぶもぢずり
誰ゆゑに
乱れそめにし
われならなくに

右　中納言朝忠



逢ふことの
たえてしなくば
なかなかに
人をも身をも
うらみざらまし

右　藤原高光



かくばかり
うき世の中に
ながらへば
恋しき人に
あはざらましを



右京大夫

なげけとて
月やは物を
思はする
かこち顔なる
わが涙かな

Kitasato Memorial Medical Library

右　壬生忠岑





右　源重之



右　源信明朝臣





右　清原深養父



Kitasato Memorial Medical Library

右　源順

水もれぬ
こゝろ
なるゝを
かぞへとらバ
おうひそ秋の
もみぢなりける

左　清原元輔

萩の露
玉
かと
見るまでに
庭もまだらに
うつろひにけり



右　源宗于朝臣

吹よりも
山里の
うの
花の
かきねは
そこぬ雪とも
みえけるかな

右　藤原仲文

最明の月は
ひろはねど
いつよの
ものと
見えぬ
なるかな





右　僧正遍昭

名にしおはゞ
いざ
こと
とはむ
宮こ
鳥
わが
思ふ
人は
ありやなしやと

左　参議篁

わたの
そこ
こぎ
出でゝ
人には
つげよ
あまの
つり
舟





Kitasato Memorial Medical Library

右　壬生忠見



右　中務





男女相性の事



男木　女水吉・初いくたびも後はよろしき女人



男木　女木吉　二人ともに女人あくまで荒れ狂ふ

Kitasato Memorial Medical Library

男未吉
女土吉
まこと人
ありて
但しおやけ
まつ事
許仕こと
なくて
よし



男未大吉
女金初吉後凶
子丑人
ありて
成人
しくず
くずもあり
万事
つゝしむ
よし





西行法師

月にあくがれ
出でしより
おもふことなき
やまもなし
こゝろにくもる
まよひぞと
しれ

男火大凶
女火大凶
おおきなる
災禍
くぜんあり
荒神を
まつるべし



男未大吉
女水大吉
まこと
ありて
人
あり
皆富貴
まねく
いわうなり
ごんぐ
えんあり

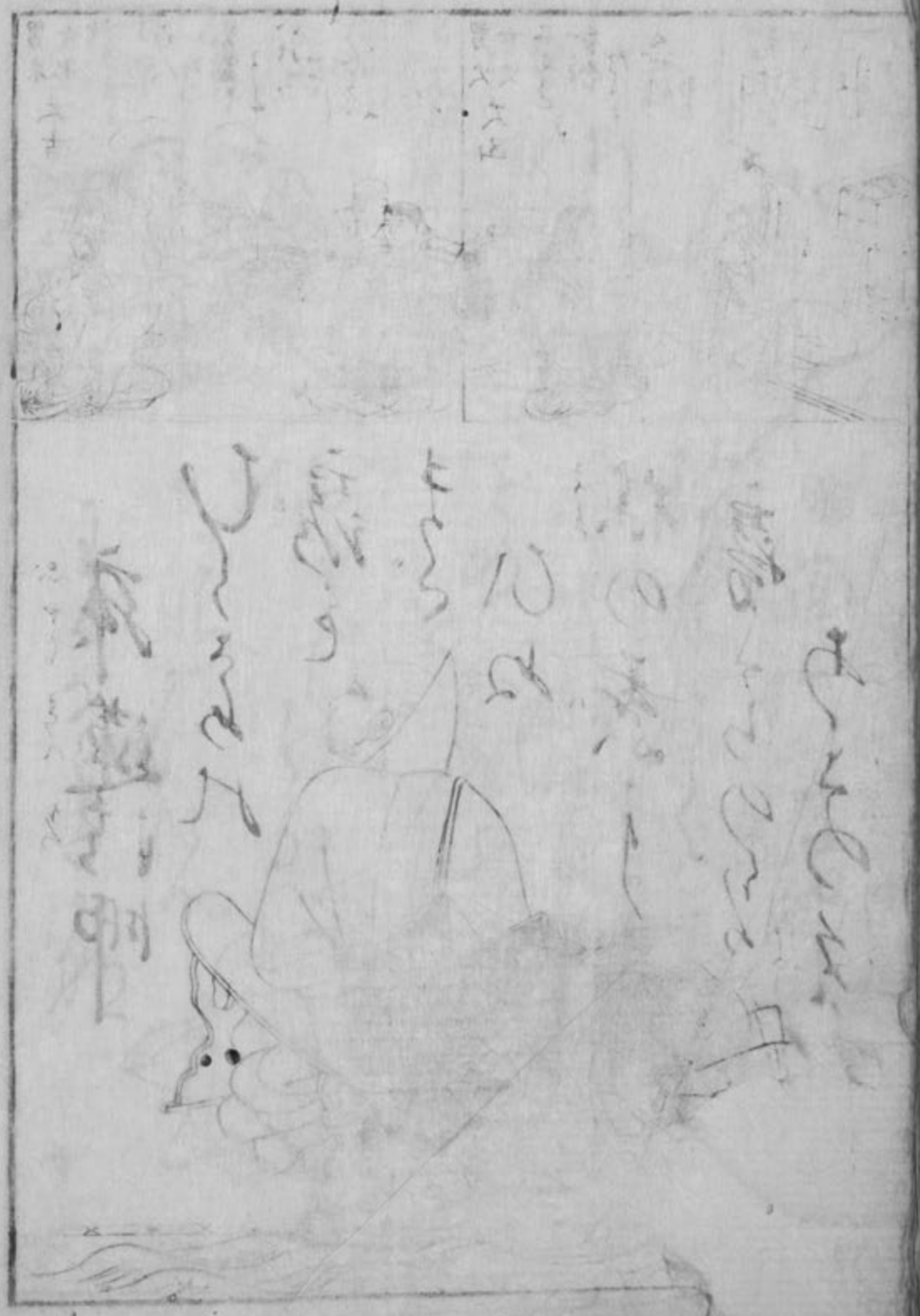




座禅法師

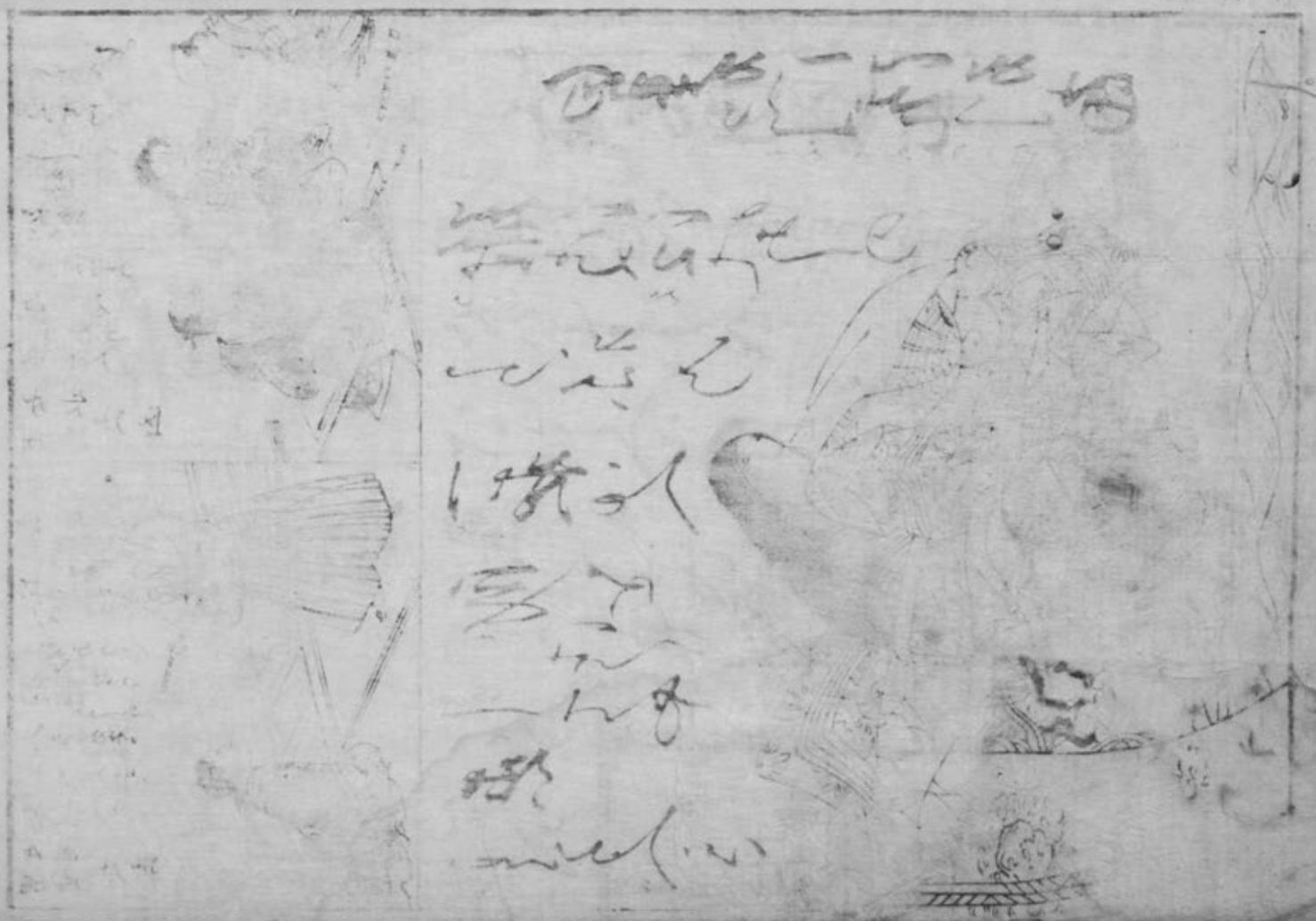
坐禅
せしに
月
さやかに
見えて
こゝろ
まよひの
雲
はれぬ
ありがたき
ものかな

Kitasato Memorial Medical Library



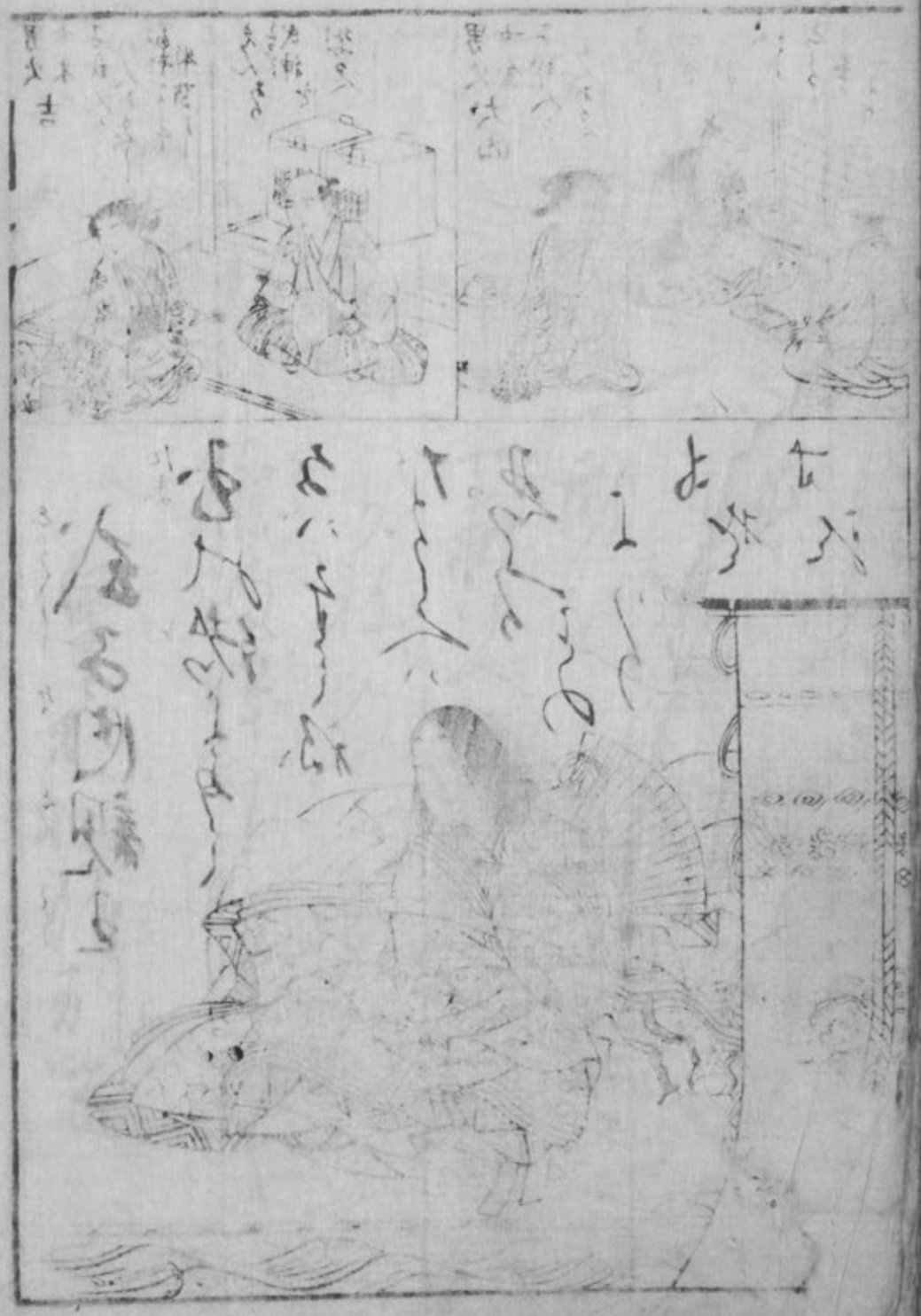
Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

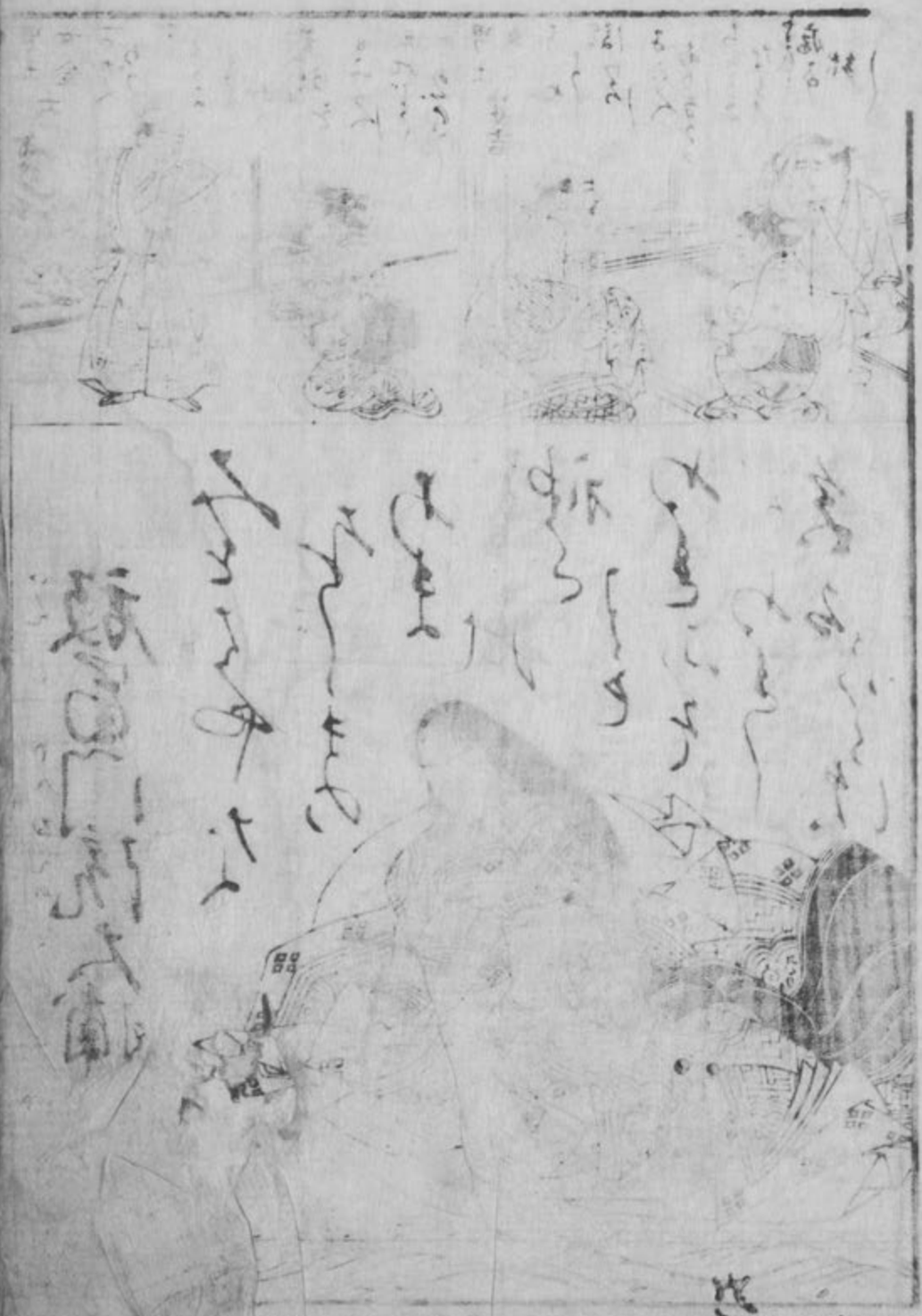


男女主　大吉
男女水　大凶
男女木　吉
男女金　大凶

Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

男土大吉
女金人
ありがたい
ぐんぐんえん
あり
荒神を
まつる人
をれば
ぐんぐん



男土半吉
女水半吉
もうめ
もう
くれども
ほうほう
ほうほう
ほう五人
うう



男土半吉
女半吉
ちうちうふ
なり
ますます
病る
事

男土大吉
女大吉
ぐんぐん
えん
あり
夜舎人
ぐんぐん
あり
神社
ぐんぐん
あり
いかり長し



殿富門流大神
みをそ
ありやな
あまのこ
ふそ
ふる
ふし





Kitasato Memorial Medical Library



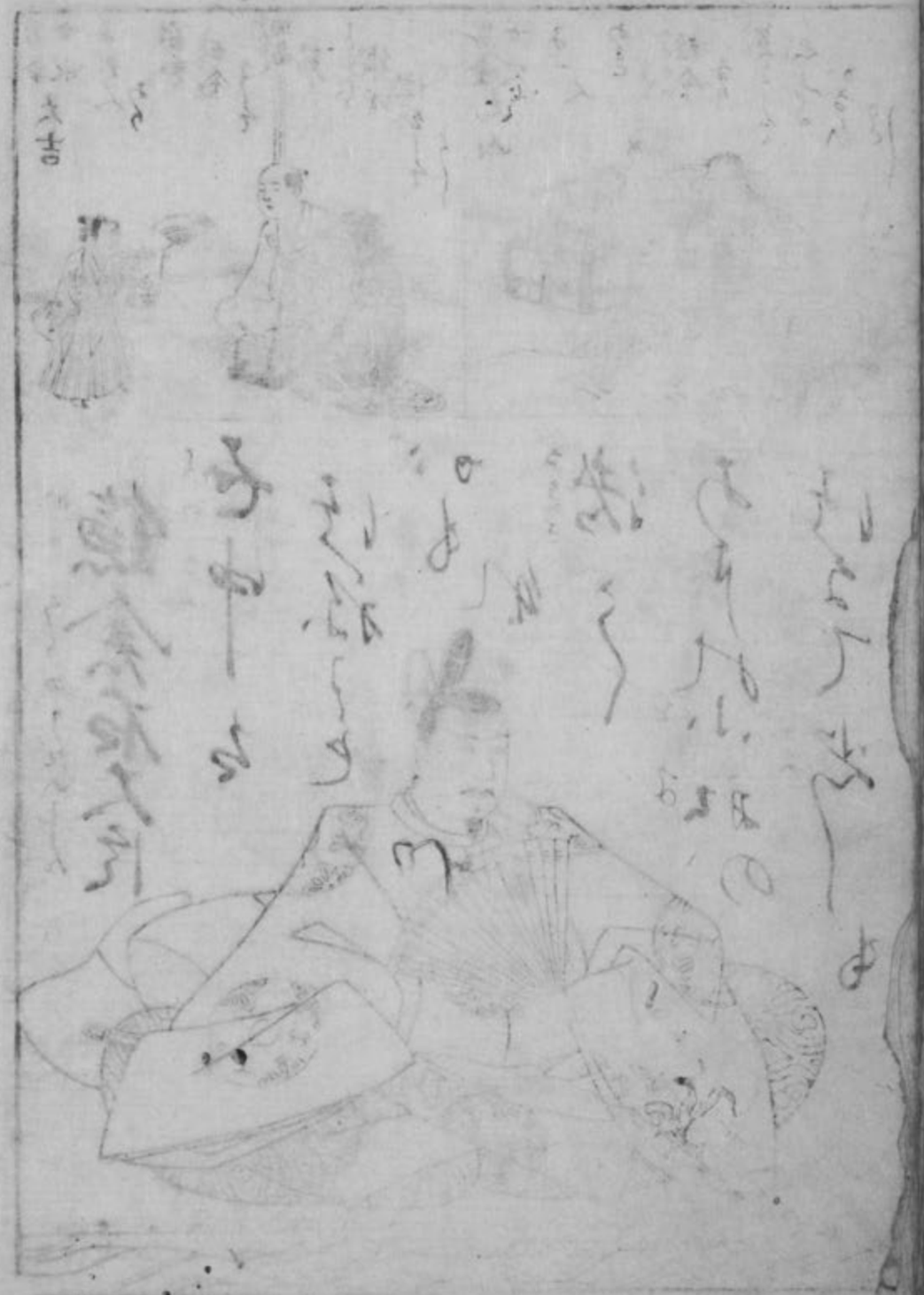
我神なれば
りやくみ
よ
神のわざの
人
らくまい
かぐら
なり



鑑金
七中
仕事
も
ゝゝ
あれ
ども
法
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library













Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library



入通新吉改大吉
花ふぜい
のうつり
変
迚も
如何
ともし
がたき
男子

一百五十七



右お性は吉迚ほうもう家生
とも吉迚ハそんきょうろうといへ
いやく〳〵そう男てしゐをふ
事〳〵男ハ通ふくしてゐ女
をいつそうをゐ女ハ気をもうりて
まよふくつくハたとひ火性とゐ
性と契ともなどもゑ縁ハうう
んぐ〳〵ふしからぐんハぐをゐ性
大吉なりともゑ縁ハぐをゐ性ぼかん



権中納言家人と
ゐぬの
よふな
のだ
夕ぐれや
ほの
暗き
かも

新成就日の事

正月	六月	九月
二月	七月	十月
三月	八月	十一月
四月		十二月

右は日の事をそらんじむるに不成就の日なり

不成就日の事

正月 七日	五月 十九日	九月 廿七日
二月 八日	六月 廿六日	十月 廿七日
三月 九日	七月 十七日	十一月 廿五日
四月 十日	八月 十八日	十二月 廿四日

右乃日の事に成就そらんじむるに不成就日なり



十二月の異名



一月 むつき 元旦月 初春月

二月 きさらぎ 如月 仲春月 小草生月

三月 やよひ 弥生月 暮春月



四月 うづき 花残月 初夏月

五月 さつき 風待月 仲夏月

六月 みなづき 水月 季夏月



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

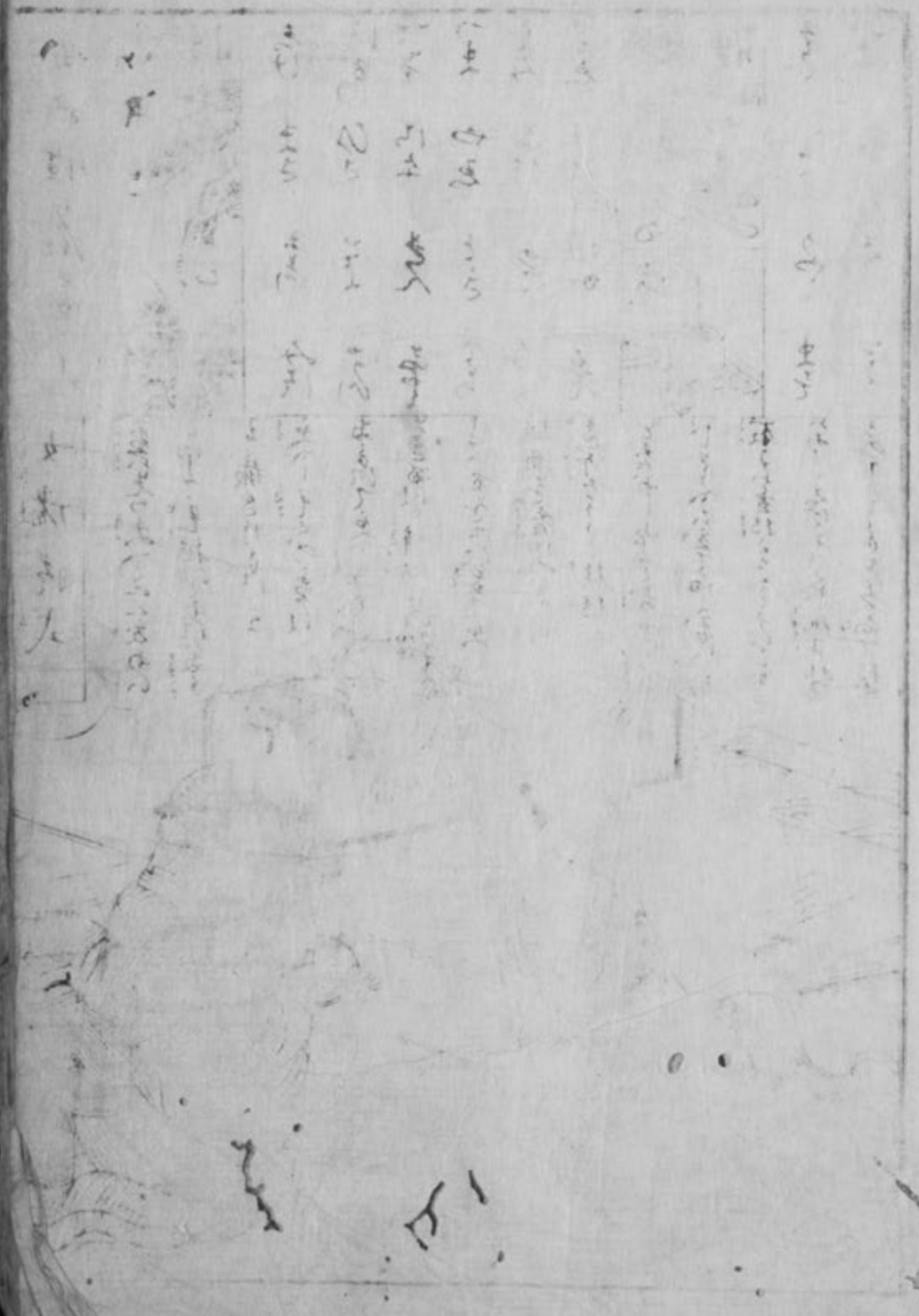
Kitasato Memorial Medical Library



七月 みづき
八月 葉月
九月 長月
十月 神無月 初冬月
十一月 霜月
十二月 しはす 極月



Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

女性名画一　女湯接式

木性　甲　乙

火性　丙　丁











土性　戊　己

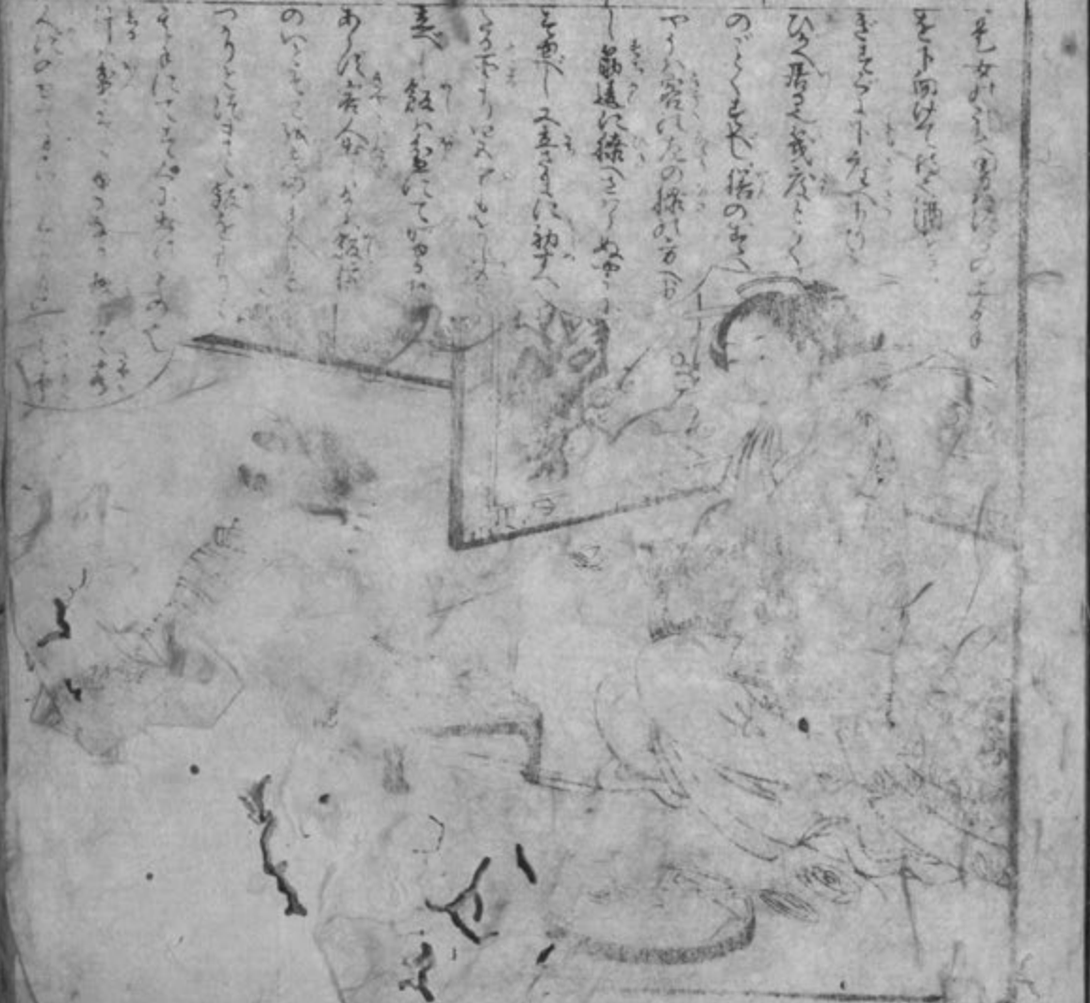




金性　庚　辛







Kitasato Memorial Medical Library



Kitasato Memorial Medical Library

暦の中段吉悪

建　満　平　定
収　成　納　開
除　破　危　閉

右月抜ある日なり

暦の下段吉悪

天赦日　大明日
天一天上　天恩日
母倉日　月徳
復日　重日　不成就日
さくこ日

右いつれも吉日なり



猫

嫁入　狼藉
没日　滅日　赤口
徒七日
けこ日
十一
地火

右いつれもよろしからず用捨あるべし

歳徳金神

甲己年	乙庚年	丙辛年
そーうのろくそく	そーうのろくそく	いねのろくそく
午未申酉の方金神	巳の方金神	寅卯辰の方金神
丁壬年	戊癸年	
いねのろくそく	そーうのろくそく	
寅卯辰の方金神	午未申酉の方金神	



Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

畫工

寛政三辛亥初夏

浪華書肆

心斎橋通南久太郎町

塩屋喜助

心斎橋通南久宝寺町

塩屋平助

大全

蓼揚齋

記

○百人一首よみくせ

天智天皇　わ繩大臣

陽成院

在原氏

文室

素性

紀伊

素徳院

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library